特別
ル 3
3617
82

文化庚午秋新鐫

旅行用心集

景山先生著

東都書賈

千鍾房
青藜閣合梓

自序

夫人々各業ありて勝ん伊勢参宮旅立する
ごとく其国々の名所古跡を見物し一家内
安穏ならんを欲彼よき銭を拵ひ到来
いさきよき松のおなじ所の町ならまほしそ
扨朋友ならば酒肴を設け一献酌交さもく
面々新切にん付る歟い笠皆寒意まて服

よのつねならず勤修渡世しのぎて
年ごとに四方諸国くまなく旅立ち
巡礼をあつめて先祖代々の菩提
東國の人は伊勢より江戸大和京大坂四国九州
松嶋名所浪花名物名所古跡
那智さてまた京都名所
法華人は勿論善光寺参詣
宮社仏閣を拝礼せる
弁國乃有かたきをおもふべや都士農工商
法門ならずや我
無らさまざまして
お稲荷様樂む事
るの盛衰をみて
ち人そも生涯
里ふとも自ら旅
山坂を歩り大山霊

偖なる銘〻〻掘りもてゆくうちのある金鉱財宝よりも壮健にして余裕ある分壮健にしてよく働くものこそ富貴の人というべし

されば人生は掘り出すべき財宝の如きものにして常に勤勉なる人は富貴の人となり怠惰なる人は貧賤の人となるは自然の理なり

況や多人の掘りよき我修すべくんや故に世の人情を通じ人のよきを採り悪きを棄て勉強して思ひやりぐ人となり出世もして子孫繁栄あらんことを教ゆるなり

河の外い記式のおよそ凡て知ってをますべきなり

なるを以て筆記して施こし
之を索るに便ならんをおもひ
著したるを集そよつゐ
くさ〳〵我思ひ出るまゝ小冊を
なし其攻を防むる
梓にちりばめ〳〵旅
作くるかまゝこの書
文化庚午六月

八隅蘆菴 景

一東海道勝景里數
一五岳眞形之圖
一水腎用心之事
一寒國旅具并圖式
一山中狐狸猪狼防方之事
一船よ醉たる時の方
一落馬せる時の方
一道中泊りて蚤を避方
一湯氣にあてる時の方
一道中所持すべき藥之事
一道中日記をつゞめ方之事
一木曽路勝景里數
一道中用心六十一ヶ條
一寒國旅行心得之事
一寒國ナテツキ之事
一船中用心四ヶ條
一駕籠よ醉ざる方
一毒虫を避方
一道中草臥を直方并に妙藥
一道中所持すべき藥之事
一道中日記をつゞめ方之事

春蒐妹鴻

五十三驛

七十二程

一日の出入之事
一月の出入之事
一日和見様并古欵諺
一旅立の欵
一大日本國正真縮圖
一諸國御関所
一諸國道中附

○伊勢参宮道 ○伊勢ヨリ大和廻リ ○江島鎌倉道 ○大山参詣道 ○江ノ島ヨリ房総道 ○甲州ヨリ富士山道 ○江戸ヨリ日光道 ○水戸ヘ海道 ○白河ヨリ會津道 ○會津ヨリ越後道 ○米沢ヨリ羽州道 ○東海道 ○木曽路 ○佐屋廻リ ○本坂越 ○秋葉鳳来寺 ○名古屋ヨリ中仙道 ○高ヶ越前道 ○加賀信州道 ○伊勢ヨリ田丸越 ○大津ヨリ大坂道 ○伏見ヨリ大坂ヘ下船 ○大坂ヨリ紀州道 ○江戸ヨリ甲州道 ○大坂ヨリ長崎道 ○同長崎ヘ船路 ○小倉ヨリ薩摩道 ○江戸ヨリ鹿島香取銚子ヘ道 ○米沢ヨリ羽州道 ○秋田津軽道 ○外国之里數

一一年晝夜長短之事
一潮の盈虚之事
一旅行教訓之欵二十一首
一白澤之圖
一諸國温泉二百九十二ヶ所
一西國秩父坂東觀音靈場

東海道

日本橋 二リ

品川 二リ半

河崎 二リ半

かわさき 川 九リ九丁

程谷 二リ九丁

戸塚 二リ三十丁

藤沢 三リ半

平塚 二リ六丁

大磯 四リ

小田原 四リ八丁

箱根 二リ六丁

三島 三リ

沼津 三リ六丁

原

木曽路

京 三リ

大津 二リ半 六丁

草津 一リ半

守山 三リ

武佐 二リ半

高宮 一リ半

彦根 二リ

鳥井本 一リ六丁

番馬 二リ半

醒井 三リ半

柏原 一リ

今須 一リ

関ケ原 三リ半

垂井 一リ三丁

赤坂 一リ六丁

大垣 二リ半

合渡 三リ半

加納 四リ八丁

吉原 二リ三十丁

蒲原 一リ

由井 二リ十丁

興津 二リ三丁

江尻 二リ七丁

府中 三リ半

まりこ 二リ

岡部 二リ九丁

藁科 二リ八丁

嶋田 一リ

金谷 一リ九丁

日坂 一リ九丁

掛川 二リ十六丁

袋井 三リ半

見付 四リ八丁

舘沼 二リ

太田 一リ

伏見 三リ半

吉田 二リ

細谷 三リ半

大谷 三リ半

大井 二リ半

中津 二リ半

高合 二リ半

馬込 二リ

妻籠 三リ半

こうの 二リ半

野尻 一リ半

汐尻 三リ半

上ヶ松 三リ半

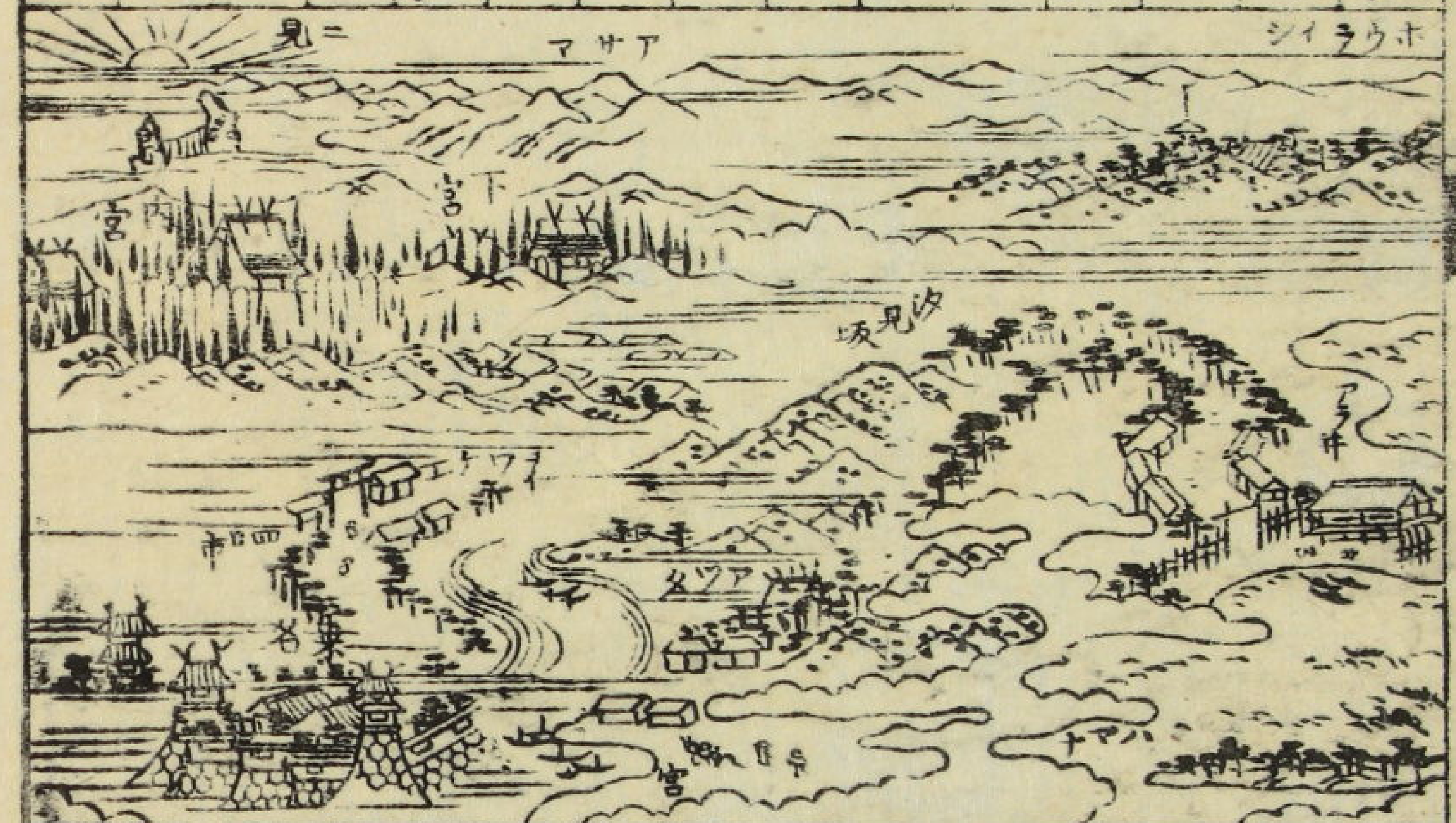
福嶋 二リ半

宮城 二リ

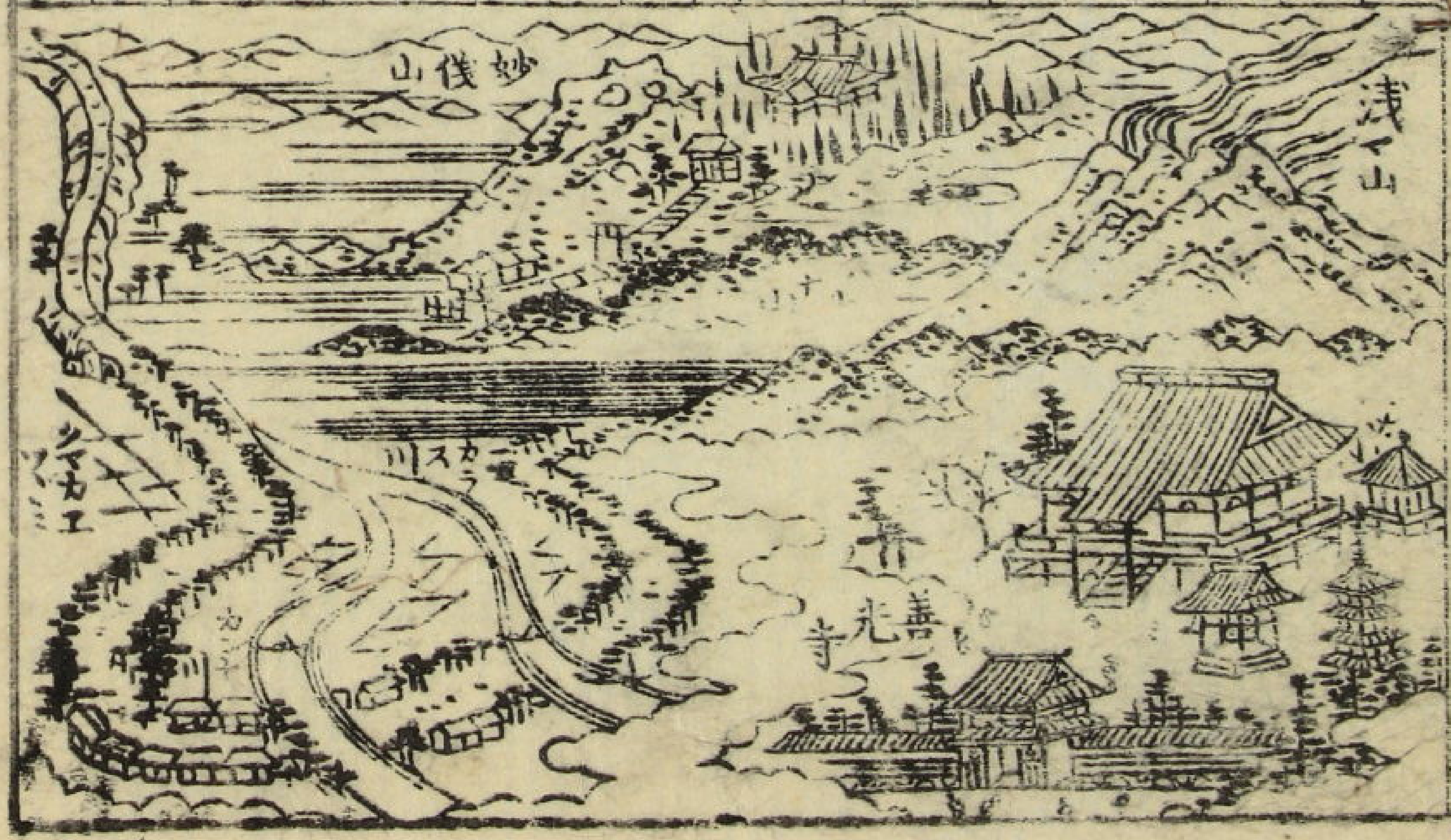
荻布 三リ半

なるみ 三リ半

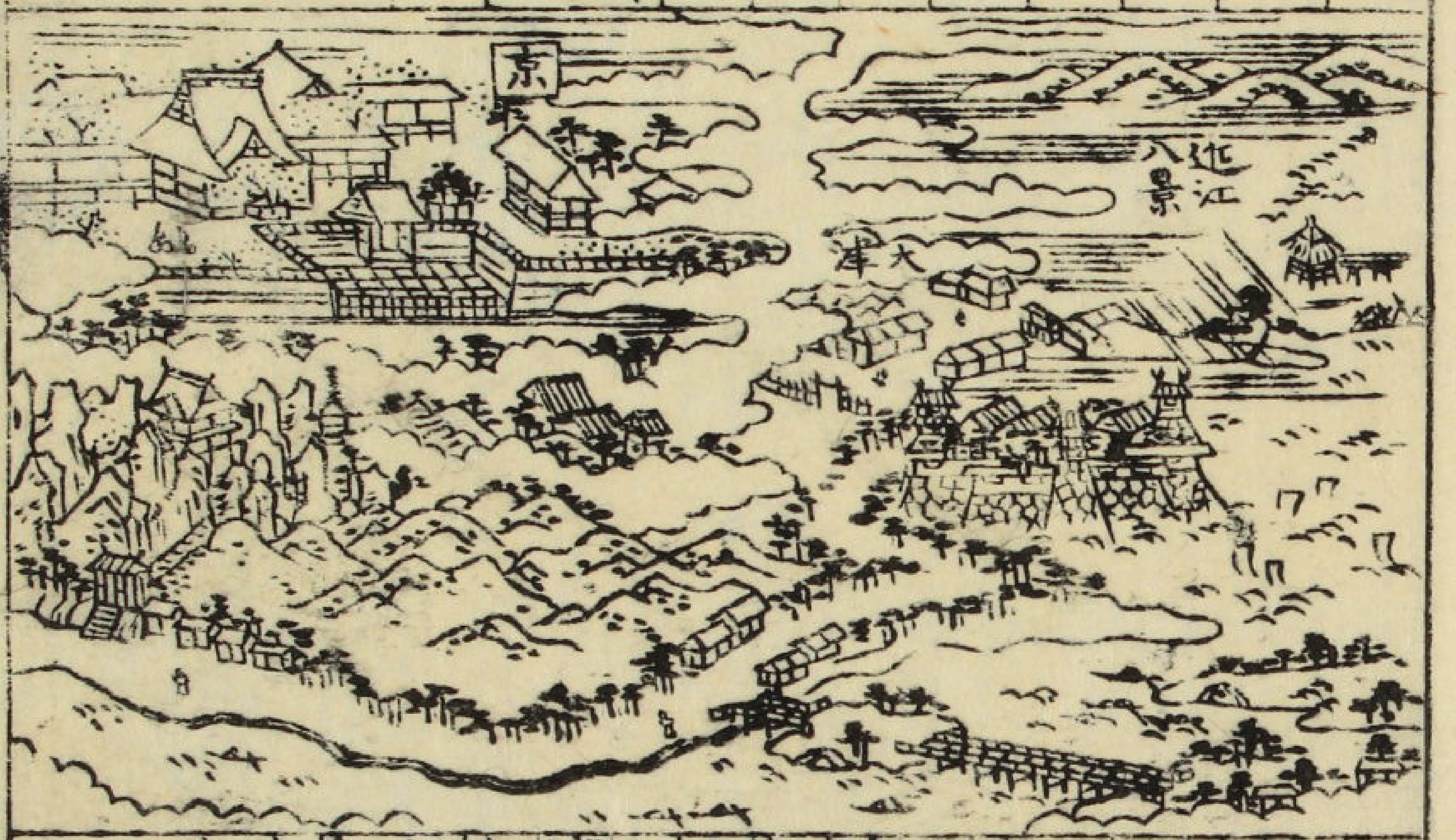
浜松 二リ 三十丁
舞坂 海上一リ
荒井 一リ 廿四丁
白すか 一リ半 十六丁
二川 一リ半
吉田 二リ半 四丁
御油 十六丁
赤坂 二リ 九丁
藤川 一リ半
岡崎 三リ 三十丁
池鯉鮒 二リ 三十丁
鳴海 一リ半
宮 海上七リ
桑名 三リ 八丁
四日市 二リ 廿七丁



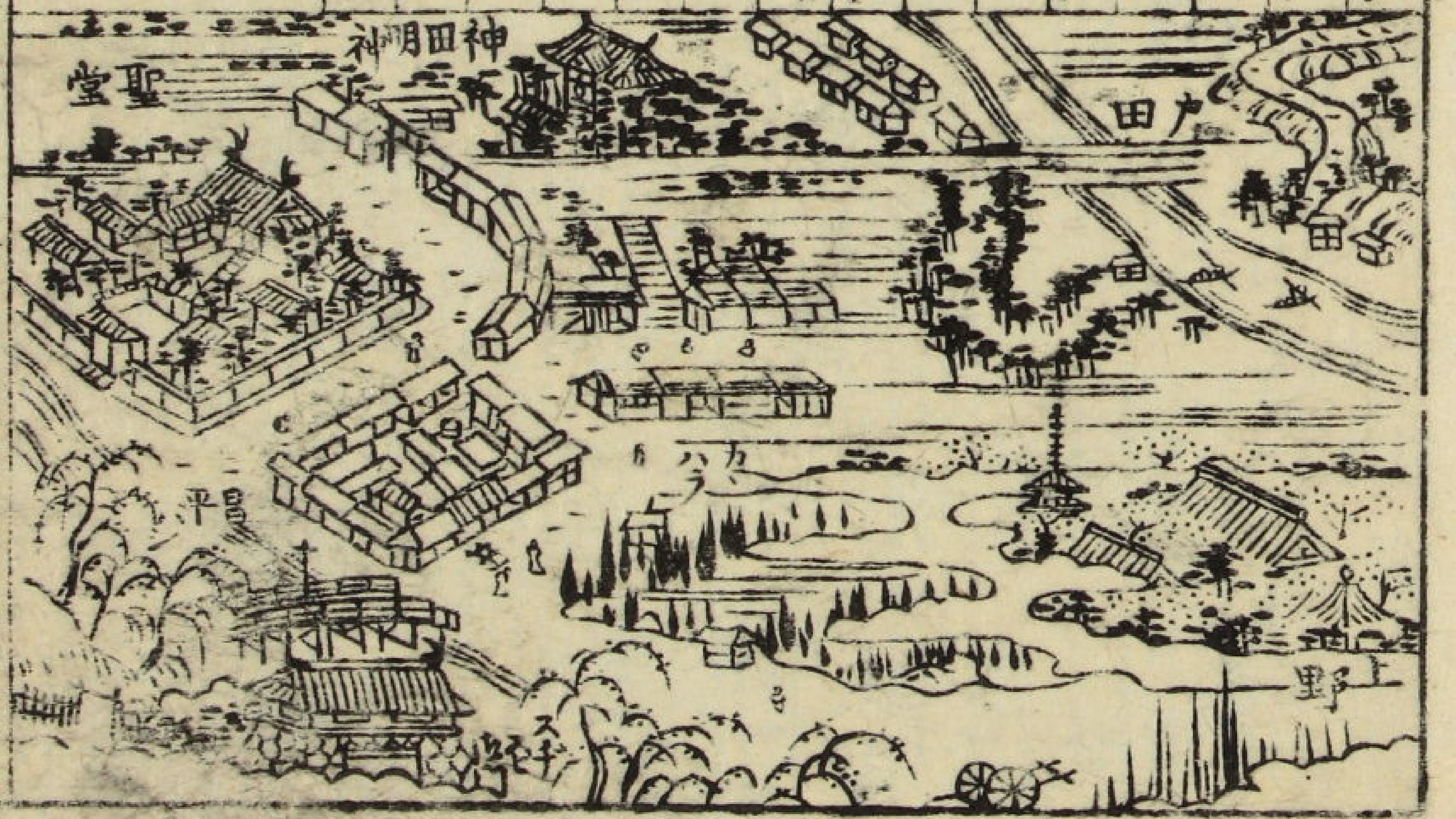
贄川 二リ
本山 三十丁
洗馬 一リ 三十丁
塩尻 三リ
下諏訪 五リ 八丁
和田 二リ
長久保 一リ半
芦田 一リ 八丁
望月 三十丁
八わた 廿七丁
塩なだ 一リ半
岩村田 一リ 七丁
小田井 一リ 十丁
追分 一リ 三丁
沓掛 一リ 五丁
軽井沢 二リ半 八丁
坂本 二リ半
松井田 一リ 十丁
安中 三十丁



石薬師 二十七丁
庄野 二リ
亀山 一リ半
関 一リ半
坂下 二リ半
土山 二リ半 十丁
水口 三リ 十二丁
石部 二リ半 七丁
草津 三リ半 六丁
大津 三リ
京都
凡行程 合百廿四里半 十五丁



板鼻 一リ 三十丁
高崎 一リ 十九丁
倉ヶ野 一リ半
新町 二リ
本庄 二リ 廿丁
深谷 二リ 十丁
熊谷 四リ 八丁
鴻巣 三リ 十丁
桶川 十丁
上尾 二リ 八丁
大宮 一リ 十丁
浦和 一リ半
わらび 二リ 八丁
板橋 二リ
江戸日本橋
凡行程 合百三十五里 十一丁



旅行用心集

道中用心六十一ヶ条

一 初て旅立の日は足を別而静に踏立其鞋の加減お試能試甚二三日が間は取分て痛ぬ様ふまべし出立の前迄おのづと体も心も足を痛まぎ始終の難義もなきもの也ぐづめは足を大切にすべし肝要とす

一 其年和持まべき物は外做より事かけて忘れ失念抱おもく却而煩

五嶽眞形圖

抱朴子云凡修道之士棲隠山谷須得五嶽真形圖佩之則魑魅精怪莫能近之昔漢武元年七夕西王母降於承華之殿進蟠桃命仙女董雙成許飛瓊等奏雲傚度歌曲而為武帝壽又以錦嚢書巻示之則此圖也故知五岳為萬地之尊其形天真則世人渡江航海随身帯之可却風濤之険所居浄處香花供養必降禎祥歴有奇驗可不敬哉

ゴガクヲタツトムルノ人ハ書ノ辞典ニ始リ和漢コレヲ尊信スルヒサシ世ノ人山坂河海ヲワタルニ此図ヲ帯レハ風波ノ険難ナク且寿福ヲ授ケ其奇験アルヿ本文ニテシルベキナリ

はしきものなり

一 駅舎へ到着して第一に其地の東西南北の方角を聞定め家作雪隠裏表の口々に至迄見覚へ置べし古歌あり出火或ハ盗賊又ハ相宿の喧嘩等の時のためなり

一 道中供をする輩馬駕籠人足の事何によらず其亭主にあひたのむべし相たのみてハ道中にて不埒の事あるまじ初面の人ハ見しらず時宜ものへ渡し頼むべし扨明朝何時出立と宵よりも亭主へ申付其刻限に遅れぬ程に

自起ざれバ宿屋不起時ハ宿を起す迄 膳の用意まてに支度をいたし草鞋なども手許にして膳に向ふべしさなけれバ人馬の用意も自然と等閑になりて手間取る事多しなれ旅にてハ些細の事にも迷惑するもさればて思ひ惣じて心得べし

一 銭ハせはしき故持つるもの乗れど宵によく心得て用意の人に渡して風呂敷に包わけさぬようにして其袋ハ床の中へ置べしほかにて思ひせされど銭おそくなる也

清輔
もくの木
竜の指と
おもはるり
よりそに
くくる
雫よ
もくる

朝のおそきい一日の
一指有い完有い勿論甚道筋初め
悶ゆらぐ物を取扱ひ
屁しく僕する
一指折い鬼角暑寒残よく凌べきものも
を心労ら一因ら
食物残消化しがさし
筍菌瓜西瓜餅強飯の類多く喰ふ
ず夜は食傷よも雀斑
及ふ事ら裏秋冬は夜に準し

一おい腹なるもの〳〵そも〳〵
おいそぎ吸ふべからず
後ふるまば心疲〳〵
氣を塞又い魚病お残
一去腹お酒飲べからず食ほ
ものゝ〳〵めの〳〵のむべし
一そも〳〵焼酎を漫お飲
ものゝ上酸のものお
霖雨又い濕氣多き土地
酒おの〳〵飲バ濕毒をそ

一空腹ゟ風呂へ入べからず食ほおえ
を和して入べし
支ゟりて去後ゟ
兎ぇ角湯ゟてぬ〳〵し
長湯すべからず去後ゟ
ものゝ〳〵多勢ゟて
一相応ゟ風呂へ入ゟ
ゟて入ゟなまこゟ
ゟ入ゟ時はむつ

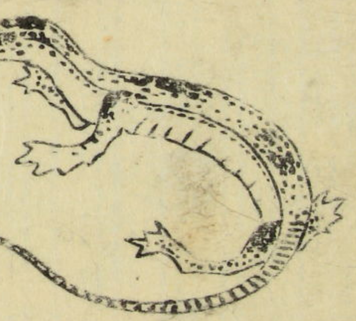
相貌の様子を見定め其中に気分の平ら
ば先其先へいましめ是らも前後乃弁ひ
よき物いひ出するものなり慎む物言を扣揉
にすれば身の益おほくと多し
一 躁の邪気を受る時は極熱の居風呂に入よりも
久しく入ても邪気去る其節は熱を発し汗を流ふ
べのうかに汗を発するあしくてだ逆上するものなり
一 一通の様にて懐子に急ろしてなくても秋冬
而まべのうかに到て様ハ九日頃の所なれば十四日に
てもりのんごすれバいそきて秋道にするよりも精益

多きことあるものなり又酒肴の都合あしき折から
其鍼灸あるべし
一 土用中ハ色慾をおさへて慎むべし貴女ハ濕毒あ
至暑中ハ尤慎しむべし恐るべきことなり又
夜具あまく濕を受るものなれど香氣のものを
懐中して濕邪を避べし
一 夏の比道中ハなるべく湯にて水を飲ども清水哉忍べし
飲べし古池又ハ山水にてもよく澄流ざる
谷水井湯に呑ぞこのうか必ず毒あるものなり尤
五苓散の類を懐中して水を呑のむべし

夏の原野よりろ毒草毒虫数多なれば筆て盡すべくもらび難し中蝮斑猫の大毒なるてふ皆人の知ところ之外諸虫の中無毒虫ありて毒ある物を食て毒あるそのにおふ時ハ蛇蝎蜈蚣をはじめ蜘蛛おほよそ虫虫蜂蟻蚰蜒蜘蛛蛭虫の類ひ小至るまで温熱の地ハ暑濕別而甚しく毒草異虫も多き故旅人たうれて山野に休むことをえざることあり毒虫をさけんまじなひの薬ホ左のごとし

蝮 まむし 又反鼻蛇 色黒黄まだら種類多し大毒あり

烏蛇



蜥蜴 和名とかげ

石龍子 山龍子 同物

唐斑猫 色微黄

和斑猫 色ほぼ同

又も山椒胡椒の類いかならび悟ること
山中の害をさまたげ濕気さまざまの毒
まの巣の巣より
一夏い旅人疲果そく道路より休或い草むら
伏眠人おまどろむ而せぬうち多の蜘蛛より
は毒虫多く蜘蛛多ほど人を刺さぜそ毒氣を發ほ
ろ旦古き宮寺の茂りたる林又い山中より巖
堀おへそこつ入或い多く濕地ホ添きとく
出休息もぐのうび件のごとくする事ほ毒濕

きそめくみ多ものなり慢ること
一食後ほそく我必ず急歩行すべからず又馬駕
籠よ乗ほそくも急歩行すべからず又馬駕
籠よ乗るお我しくも飯の後立ほ後向ほきぐ氣
もの人ほ氣我塞こと
一大小便ほ我慢せずうび我ほ馬駕よ乗而
ぐのうび我馬ホせば心を害敗死するの如き
一人馬の生船出ひんとするほ出立の日よりて四
こほよ出すべし一たびれい事ほて一時よ
なりそそくせんなきものなり

一武士荷ハ勿論高人荷ハ勿論ニて
先宿役ヘ相廻ハ無ク駄賃帳を出し一人
問屋ヘ到荷の荷物の順状見定之荷ハ
ヤ渡ス一又問屋切ハ混雑の切不取紛
又ハ他人へ渡しそうろうまきやうふんべつ
一武士ニ勿論乍人
馬方人足ハ不来ル
ニ而ハ馬ニ
荷ハ

造(つく)りし河越(かわごえ)の名物(なぶつ)の高小路(たかこうじ)の会席(くわいせき)よりの入(いり)
用(よう)心(じん)すべし　越(こし)前(ぜん)川越(かわごえ)の物(もの)おもしろく湯物(ゆもの)珍(ちん)
物(ぶつ)心(こころ)得(え)べきなり　酒(さけ)も魚(うを)いろ〳〵
佳(よき)肴(さかな)をそなへ
一　旅籠(はたご)先(さき)にて志(こゝろざ)すべし　又(また)出(いで)立(たち)の
又出立(またいでたち)にて橋(はし)を渡(わた)りかちより　次(つぎ)の
船渡(ふなわた)しあり　此(この)あたりの名物(めいぶつ)おいあげ
自(じ)然(ねん)お薯蕷(じねんじよ)　魚(うを)金(きん)にて
仕(し)立(たて)ます　べつして佳(よき)魚(うを)多(おほ)く魚(うを)屋(や)は
ほとゝぎす

村(むら)雨(さめ)の降(ふ)るかとよめる板(いた)ぶきやは
ほとゝぎす

一川越ゆる坂和女子を連立てゆく時は多く男
子を負ひ婦人は男子と連立ちてゆくなり
其上川越人皆の乱雑なる事逆上して
血の道おこりの発する人まゝ坂を先へ川越
ゆる坂和おのゝ混雑なる事をおくと
云哉連中の者共置ざるやうおのゝ心得置ざれば
坂中にて女おとろきおとろかすなりの
おとろきは川越ます限ず水

勢永渡し山坂おのゝ嶮岨なる事おのゝと
云哉置べし肝要なり
一川越又は船渡しそのほか山坂おのゝ嶮岨なる事おのゝと
心得置べし肝要なり
一渡場にて荷物を馬に積ます人先へ渡し
馬は先へ渡すべし人先へ渡れば
馬物をこわがりさわぎ荷物をおとし
怪我おあるものゝ老人女子の荷おいる

あるは変動の繁きをそのまゝにせず
一をそのまゝにして無益を省くなどありて
要用のそれをそのまゝなるもあるべし
陸地を通るなどは
をり毎をあるも
るも者をも
ぎを知るべし
一出あるの
をそのまゝにして
まる故よ怪来

川よりも渡しく
夏日山奥より夕方
ぬまり同多の
多わるすあふ無く
の酒自川奥流そのまゝ
ある山国よりの
みの形いかもわるべし
をなの如く渡るをそのまゝにして
渡るようある橋を

一森の間續つゞきたるあるうえ山岨の大巖石お首下
より泊屋又いり岨下をそこる家居あり泊るべうべ
一そこ迄まて人馬の傭錢并宿錢お連立まて
もそこ迄この間のくまおよそ歩すべし名おお
よそ錢のそこ迄おきく人に書留お紅墨等
その日の酒そまて箕利すべし
日記帳お志るしおきものより用お等閑せぬこと

一そこ迄まて錢いまた又いあ七百文お連立まて
その人信實なるとそも用あり
よ業お互のそこ迄馬あきく人駄荷ひろ人お連に
なり賀知人まてそも用あり
のらび等迄まて入用のまても他人
ゆるに都合よきお志るおあるものより皆人お
中へ出すは我分お墨用お掃人よおきぬやう
ます錢お
一そこ連いたりく又人お限るべし

一くすり賣稼する者の口上多勢の中にて必ず和和の出るもの之

一道連にて歩行ものゝ内大酒の人并に癪ある人或は癇癪病喘息病等きつよき持病ある人其外いつよきときいふとも其時其病發せざる樣にいのるべきなり

一其年跡金或は胴肱布等の入用の物一切共に小出しいたすべし尤小出しするゝは却て大金を入る事多し

一人參の出るもの之

一泊まるに刀脇差を自ら携る床の下へおく
一煙草盆の奥へおくべし
一煙草盆の煙草も煙草入も床の上へ置べし
休む又茶会ホたなどの外は煙草入を外へ出すべし
一煙草の吸殻を灰吹へ捨べし
一煙草盆の灰吹へ煙草の吸殻を捨べし
通りかゝりに灰吹の内へ唾を吐べからず
客ホたなどありて暇乞するに

一間の為又は模倣をするものあり其要
所の心を知らず外より出さすして
おのれ心をもつてその秘事をあり
一皆人他國へ出ては始めて風俗いろ〳〵を覚て
已が國言葉をまぜ又其の人を誤まおり
おのれ〳〵と思ふ必然をかしきものなり
他國の風俗ものいひを笑ふことを誤と思ふ
一人の説を笑ふことを論となすものと

一そも〳〵謡小うた浄瑠璃ホウヨウ
りを生まよりも踊うたふをのらず
場なりと思ふ
一其事まて皆其ものゝ喧嘩口論博奕碁
将棋村踊村角力變死人數生坂勉め人も多
ホウ又斗ひあるべき
一高ひ筋をして外用又は湯治先物集或は河留
おまても逗留する折塗炭に勿論かけの碁も碁
改めすべきのみ且自己の知る高しをも
も出せぬ事より利益より事起て互に失ひを

一生ず大まよくろこれ悩むなどきさるり
湯治場ハ硫黄の氣多故大小の身差指ホすてもも
錆るものあり其用心肝要ニ尤湯治まもよろ
も病のなきおもものまと急ぐはさびものあり湯
治仕方温泉の地名いまよくろ
一主用或要用ニて初ニ行もる人僅のおまて
も田舎をして名所舊跡お日時だのくし且志ぬ
志すべくし
一振舞まて出ぬ事ハ必ず
志ニくい身の程ニ応ニ太切なる物ハ持除

まよまて風すぐをスキひ荷物おのこえ出
ろてむおまあくる
客間い通ニ膳部ハ
お膳の部ニ有ある
一旅ハ相方ニ有ニ
用心ハそれぞ何ニ
ニをも心得又書よ
為酒乱狂氣ホのく
相方ニて大酒宴ニ
一相方の中まて大酒宴ニ

正ぬ探すものゝだ地方の連中まで酒宴のすむ
やうにかくる〳〵一人つゝ
むのこり北出まで居べし若酒もりも
一馬に雪き揚るものゝ有ものゝ
〳〵荷物よ立附居り荷物曲り
地よ付ひをり合下べし〳〵ろ〳〵荷下さいかゝ
らず怪我するものゝ
一三月比まで田をるゝ事ゝ
ゝ人付ゝ田をるゝ日〳〵石使休めたきゝ
俗つゝふ方要ものゝようゝ駆出すものゝ

ゝ
一夏ゝまで〳〵馬よ
蚤ゝ付方に付ゝ
付ゝあぶすゝ因
老人小児い夜ゝ眠
一ゝまで相宅
まするもの代すむ
ゝまで入用
へゞ
一飛肢差荷支料

雪ふれそこらなるうぬもすいまてのおもしろねなるもも　師時

そうざる役すりさえ気もきとこみくく万一重人の要用を欠のこならず大事をくもすてそのまゝばあるくきとゝのり

一そも一ざの大小柄く短き残ら刀也脇ざ又ハ団ち立てる梅お宝風の衣裁乃ゑ用四つのびおとそすれい難ち事

一石連ゆ小者共雇人おい出立ちおゝをぼよせ先そも一札を社重ね一万一金申まて病死のそは書状ハ金銀よのり孫ち事時ハ

泊屋并ニ醫者よりも一札を貰ひ取置べき也
附り其一人旅又ハ回國する者ハ寺證文往来手形持参
べきなり若旅中ニ病死する人ハ其所の作法次第な
のなりと知るべし
一 其年まて日蝕あらバおよそ体を休ミ合蝕すんで
歩行すべし月そくも同様なり
一 道中にて神社佛閣ハ勿論橋之立木又ハ大石などへ
落書張札など致すべからず
右六十一ヶ條の外意得ある事ハ此末に委敷
しるすべし

水替用心之事

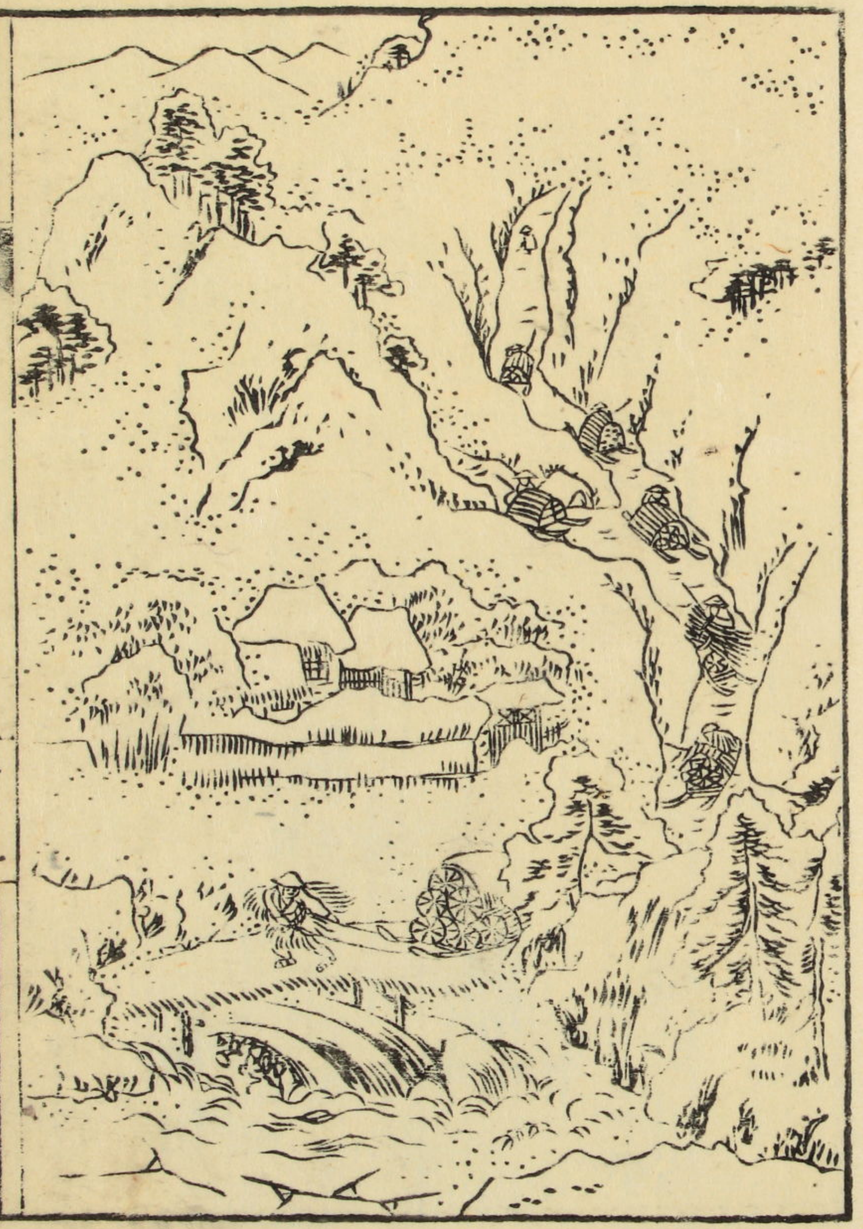
一 皆人他國へ出ぬれバ五七日此中ニ水替とて或ハ腹
合あしく或ハ逆上或ハ両便ニ通或ハ發斑小
瘡ニ掛る類の外するもの惣憂ニことあり何國
にても一天地の中なれバ同じ天地の氣を呼
吸することなれど水の替りたるにて其の土地の水ニ
べきなりバおさまれどもさる河ニ其國の風土
によりて湧水にも陽らん寒暖の候人氣食物
に至るまてことごとく其國の風土にて異なれバ
たとへバ山川の魚を堀池へ放す時は忽ぐるしむの

同姓よびめし一月と二月と長國の氣候ハ
すこしも異ならず駿河ハ必ず姥山通理
なれども駿河ハ必ず姥山通理
時候と京大坂おくの國越後奥州ハ又格別の相
違ありて其姥山の法度ハ通用なんとハ思ハれず
其國ごとに開帳ありて其人ハ
其國へ參詣すべし
の人大勢江戸へ集り居て痘瘡麻疹流行

まねひ幾度死しるとかり免おくれと云地より
廻せざる故すべし
幼の小兒普光の
食起居おのとそ
よきかとの業い
寒國旅行人ハ
一奥羽小城の旅行ハ飯球ともるよのもを
く用心あるこを
十月奥海ハ雪い
山上晴野のそ

粉雪ふるくらぬ風よ吹ちられくる雪吹
のめり況や酒のまれて一二人つるれ路
のことなれば砂人路の目あてもなく
公用の人の雪踏人足をたのみて雪間さ
すれども峰の旅人はそれもなくびき道のへき
人も稀なりければ雪をこうしてほりひて本道
出ることあるべくもあらず
如此旅宿上戸ばかりさへ大酒呑してすべ
ることなければ分盃にして雪吹なりとも
せぬ人地ごくれど山里の油雪を踏へ

論田も畑もなく一面の平地となる也へ醉狂の
元まゐて方角をそひ泳き漸辿りつく
聊まごゝえ死人多しへ扨もおそろしや
聞て志摩ふんぬ魚をうり出給ふ
巖窟ふ冒れくゝ神竜氣力を雪果くゝ
吹ふあひ絶倒するとゝ仰ふ酔ざれを
たゝひ雪吹ふまきて一杯をめすさへ命に
なりますなへ奥納の人ゝ雪吹ふあひて空
死する人多くと上戸大酔のよふなるは注意



一雪吹のおひたゞしき人ごゑてごゝろこゝろの修業
みの氣ざんおしくゆるすべからず
火を焚初めの主火をおこすもとん葉
人を風呂へのするをも初めの頃ぬるくしてひま
よ熱くすべし火をそゝぐべし
時は逆上して寒ぐこゝちあり

寒國諸雪之國式之事

一雪中旅行の紙衣胴服或は皮羽織のもの
ゟ着用雪國の雪ごしきと
油雪のごときこゝろまでなるものをす

加馬(かうま)を龍(たつ)る縄(なわ)

駕籠(かご)龍雪(たつせつ)ハ下地(したぢ)を組立(くみたて)上(うへ)を表(おもて)を張(はり)て包(つゝ)むものゝ如(ごと)く紙(かみ)を用(もち)ひ常(つね)の雪車(そり)に据附(すへつけ)るなり中(なか)は刀(かたな)のさげもありふとんなどをも敷(しき)道(みち)具(ぐ)おのづと常(つね)の駕籠(かご)の如(ごと)く医者(いしや)などの乗(のり)用(もち)ゐる

雪車(そり)ハ物(もの)を荷(にな)ひ肩(かた)へかけて一人(ひとり)にて引(ひく)五六俵(ひやう)より十七八俵(ひやう)を引(ひく)山坂(やまさか)の荷(に)ハ杖(つえ)まて梶(かぢ)をとり自(おの)づと来(きた)るなり牛馬(ぎうば)車(しや)ハ物(もの)を荷(にな)ひ綱(つな)をつくろひ一駄(いちだ)を二駄(にだ)刺(さし)ハ十俵(ひやう)より二十俵(ひやう)迄(まで)を舟(ふね)のごとく積(つみ)て引(ひく)なり

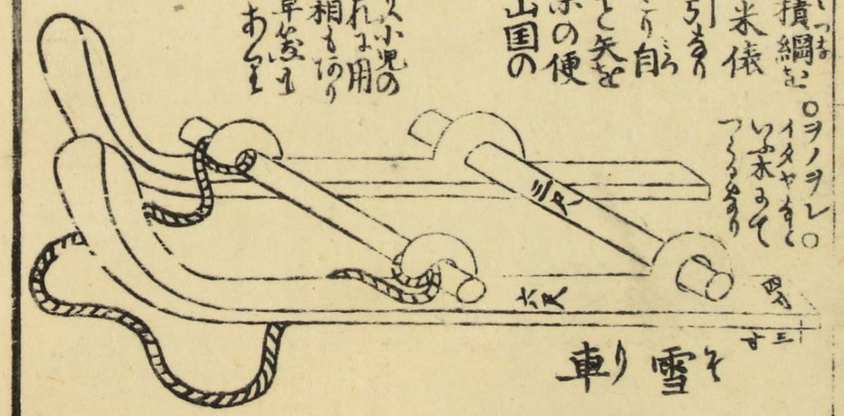
○ヨノヨレ○イタヤまで(いずれも)

雪車(そり)

箱橇(はこそり)

箱(はこ)のごとく小児(こども)の乗(のり)用(もち)ゐるなり

圖草(ずさう)



カウスキ

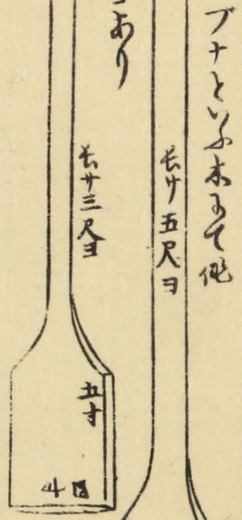
ブナといふ木(き)にて作(つく)る

長(なが)サ五尺(しやく)ヨリ

外(ほか)ニ長柄(ながえ)あり毛(け)ハ八九尺(しやく)ヨあり

長(なが)サ三尺(しやく)五寸(すん)

ハヽヨ

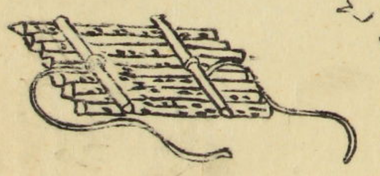


山(やま)うち積(つも)りし雪(ゆき)を屋根(やね)より卸(おろ)しなどのぬくとき氣(き)をもつてきり町(まち)の中(なか)又ハ大雪(おほゆき)のふり道(みち)を掃(はき)ふるもの又ハ児(こども)外(ほか)にて戯(たはむ)れ遊(あそ)ぶもの雪(ゆき)有(ある)ものも也(また)突(つく)あるもの

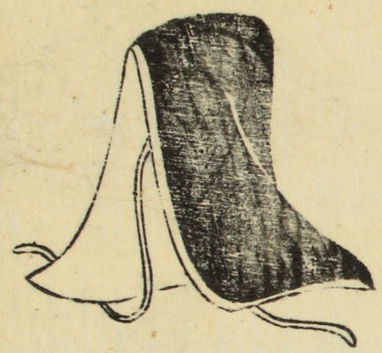
雪踏(せつとう)

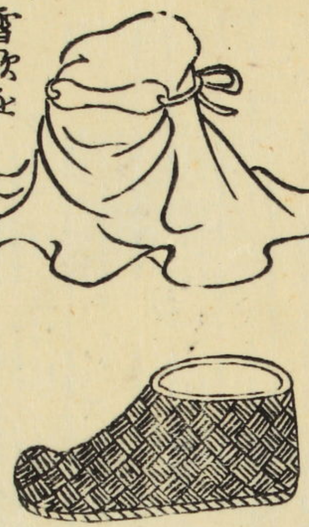
藁(わら)にて作(つく)りあんのごとき物(もの)なり雪(ゆき)のふかき所(ところ)を通(とほ)るに用(もち)ゐるなり

同上

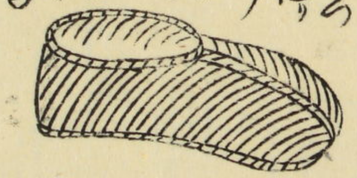


雪吹をふせぐ

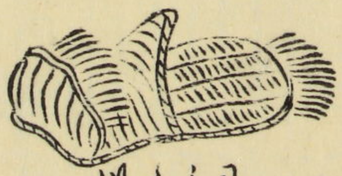




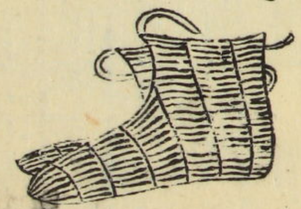
源兵衛笠　藁にて作り口に木綿ヲ付ふさふさ



上同



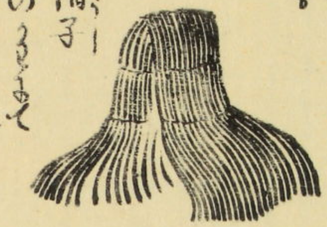
ひらくり



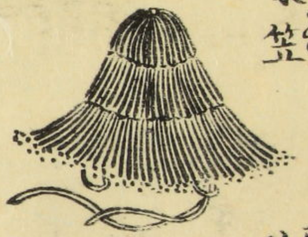
赤綿たび　色赤き木綿たびを作る木の皮にて織るたびより下直のへんなくこれをたく

兜頭巾　長範頭巾ともいふ革にてつくりお綿をそへる

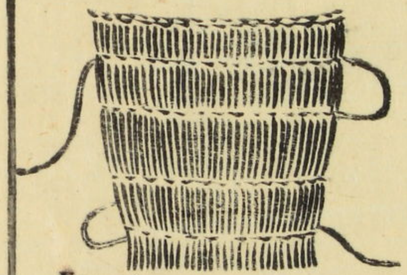
赤綿帽子　色赤の木綿にて製しくるものこと



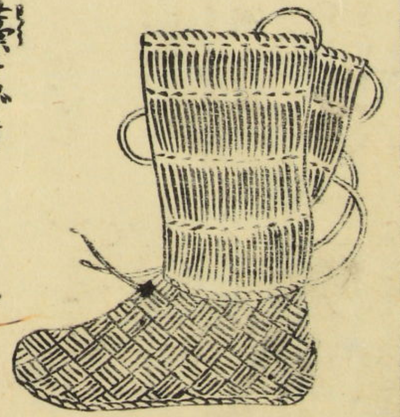
藁笠

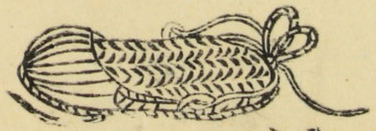


藁沓　色々こしらへ付ものにつくり雑談ニもよくこれ専用也



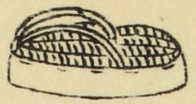
藁たび　これハやく気のものより又薄くそのうへ又あり綾ぢもやさ者綾ふせくまい藁はよくない事



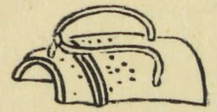


ヲリコミ　又　又　ひきうすキ

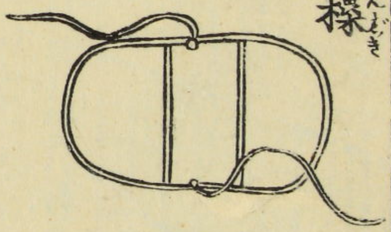
橇



草履下駄



竹ノ下駄



橇

越後の雪の氷りたるは皆の上又は檜のごとく小兒は下駄をはきて歩行ず雪深き時は竹ノ子笠をかぶり手足に毛布十ばかりを巻付け下駄をつくりて雪車を用ゆ

山中下駄も草履も下駄のめくるごとく見ゆるは曲りをよくまわるやうにおこれを用ゆるゆゑなり

蔓もて作りたるは雪のふかきところへゆくときのみ用ゆるなり山獵又は樵夫これをそなふ

越後の雪國なるを用ゆるをもて冬を知るべし

寒國ナテツキの事

一奥羽越後の平或いは二三里或いは五六里が間両山戦ふなる山道雪ふかくして冬年大雪ふりて春二月彼岸比ふるに両山の雪裏腹にふりて去除をなんとする比東風或いは雲降地震抔あのつまるがようつて変化ありて其折節は俗語ナテツキといふ其折節は

ゟも山路ハ猶迷ふ事ナテの下ゟ押移られ
ゝ遠ク死するゝ人ハまゝあるゟ時ゟ雑ゟあゐゝいふんとも
清く心きやうすゝみ笑ひ参るゝ人ハ来ゟ迎ひ
皆てゟ早速其雪ハ屈賢て手ゟ死骸を求ること
ゟゝび夏ゟ至て雪の溜ゟを結ゟ外ゟ通ゟ
か様なる事を注意する人ハ主用要用のまゝ
此時ゟ為ゟ決して暖を考へ其古地の人ゟ指ゟを
見ゟ事ゟ勿れ一ツも安ゟ事ゟ無ゟ物ゟ也もあゝ〳〵凝ゟ
教ゟまゟゝ既ゟ金津ゟ越後へ又ゟ上州

ゟ先心残ゟなくてなどゟ云ゟ事ゟ無ゟ様ゟ
元ゟまゟゟ教ゟ
ゟのゟを立ゟ度ゟ
ゟゝゟ此すれば
都ゟて心残ゟ
らん事ゟゟ

船中用心之事

一船ゟ発ゟ時ゟハ先ゟ船中の諸ゟ
の教ゟ有ゟ
風ゟあゟゝ船ゟ

たゝひとりそこにおつこちぬ甲ハ人〳〵と叫すれども
水おとぬ人ゝも沈まぬ也ゝ助ケ
一海のうへのそく大魚の背ハ石壁のごとくにて船ハ
音あるものゝ也叫ぶまでもなく魚の背のごとし
一船の漏まして雑水おびたゞしくあれど俄ゝ塞ぐ事ハなりかたし
おまくそく波湧ゝ大渦を巻あげ激揺
するこというもおろかなり甲ハ船ばたにしがみつきあるひハ
船霊〳〵と拝ゐるのおのそもおのづからなり
〳〵ときゝば波の渦巻ふするなりまるで船

残気ぬくると肝要なり

一便船の人数多きおゐてきらいあるの第一予念其船中の雑気又船くもるとき船中ゟ船ゟ船中のきらいあるとき必ずちらふなり人は活るとも船中のきらいありて急病ともなるあまつさへ船ゟの船ゟへ移すとき誤て水をのめば即死なり

○船ゟ酔たる時の治方

一船ゟ酔る時大ゟ吐しそほ渇くなり其ゟ食なき時ゟ大人の便残呑すべし幼き人の尿を呑すべし誤て水をのめば即死なり

一船ゟ酔る時に至る河のみを一口呑べし船ゟ酔ぬ心

一船に乗ゟ陸の土をおく紙に包み脇のうへ

あてゝおけば酔ことなし

一硫黄紙ゟ包ら懐中すれば酔ことなし

一又方付木を二三枚炙べし悪気を払ひ

酔めぐるなり

一又方はよき醋残一口飲てよし又梅干残含てよし

又生大根のしぼり汁を呑てもよし

一はやく酔嘔吐ゟくるしむ時ゟ半夏陳皮茯苓の

三味をおかせんじ飲てよし

○駕籠よ酔さうする方

一かごにて病人いかなる処の戸を開て乗ぶべし

一南天の葉或頭痛甚しく むしのわるきを

もごよく醂て

よい熟湯よ生姜のしぼりを入 冷水少々して呑すべし

一女子馬かごよ乗時いそがしきまま残細辛まで志つかを

志めて乗べし

○荷馬志つる時せ方

一荷ひ縄の下へ或ハ唾よ血交ず出る時ハ

糠の粉を酒よて用ゐべし又蓮の葉ハ細末

にして湯よて呑てもよし又腰ゟ足へそゝぎても

よくよく血のごとくむきて斑〳〵ゝ赤のこと

速外科我教て出血をとゞめるべし

一馬上道すがら食物之ハ目をとゞめぬ様すべし

一馬の汗を大毒之

○毒虫我ゝ方

一蚊ゝ蚋ひ傷を悔ずれバ又乾姜と雄黄を細末にして付てよし

龍脳麝香樟

脳のまよひ香氣たのきものの球根をもちゐ
○道中泊屋にて蚤を避る方
一苦參といふ草秋生のまゝうへて置ハ蚤よりぬるなりもつとも草壁山よりおこるものこゝへハ
あれどもすこしの間ハ蚤ハ入ず最法草ハ
圖ハ下にのせたり
一枳實を拾ひこみ抱き寢れば蚤よりとる
一又辣蓼を乾し床のあたりへ敷てよし
一又方枳實を沢山ぜんぶ球ひきよく打
ころ細末にしてまきてハ蚤よりぬるなり

苦參　和名　くらゝ　一名　土槐

山野におゝし葉ハ槐の葉に似たり花ハ赤き豆のごとし
根黄白色にして至てふとし

莖苗を生し高サ五六尺に直立して夏花ひらきて秋に至て枯

○道中にて急病を直す秘伝奇方

一足弁当茶屋にて休むべし若し轢のまゝにて足を休めず腰無理にのらずんば轢なおれぬ人くるひまた又いたつて急なるものを揩出すべし

一草臥直るまでぬき上へおのれも不自由のなきやうに轢を調へてよく〳〵おちく〳〵休むべし

一足弁当又足にて乾き熱せる故なり痛みなきやうになるまでも出まじきなり因て折〳〵轢を解足の痛の

ものを揩ますべし多くは休むべし

一草臥足痛する時いかゞ名医にかゝるとも足のうらをこのふるすゑを針灸すべし

乃ち一ぬきなり

一五拾弐文たる時は風呂へ入て後焼酎を以て三里より下足のうらを吸ふべし一ぬきなり

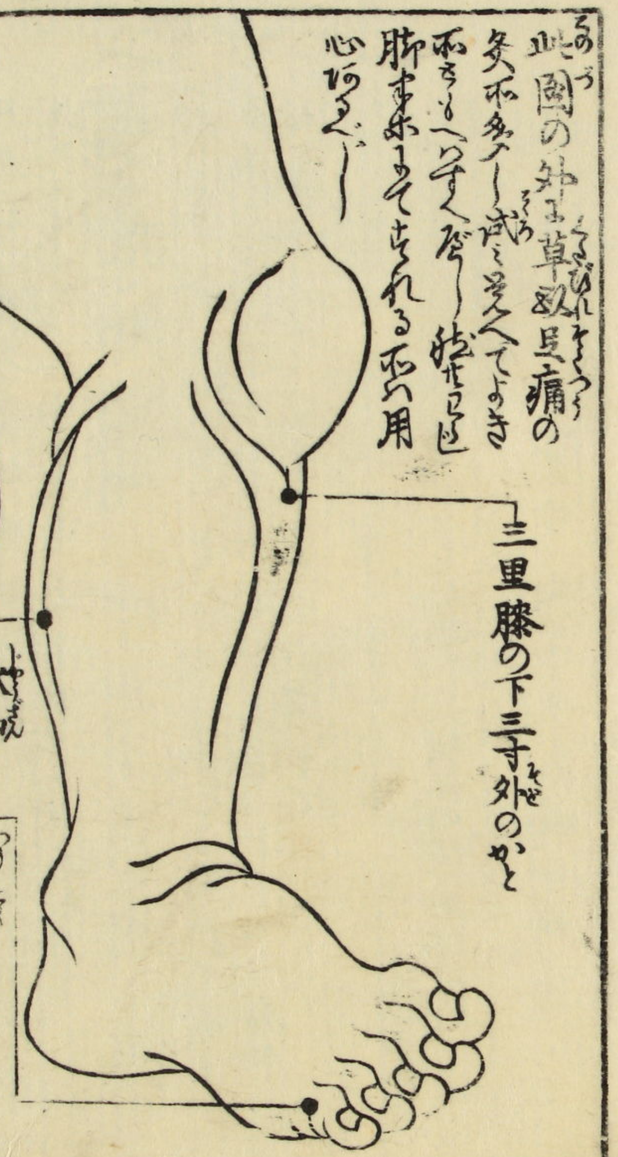
一幸路にて足のつゝ心ふまず脛痛まば蚯蚓を泥のまゝすりつけぬのまゝにてよし

一草臥たる時足の三里承山通谷の三ヶ所灸すべし

ちふ國あまた合ぜ
一巳のうらへ〳〵ゟ糸にて結ミ
末をそろ〳〵ひのまま
一又方煙草のきざミ
ゟのふやまてよ〳〵
一又方薬種屋ゟて唐の土ゟふ物を買へ
そろいのまま
一又方木綿糸へ針を通し〳〵糸へ矢立のすゝ
淋こぬりまめ
のうちゟおこす痛ミ止るをぬ

一 田螺を醤油にて炒り乾置て搗砕き痛処へ
二三日の内利あり
○湯氣にあたる時の奇方
一 風呂へ入る時銭一文を冷水にひたし置風呂へ入て銭を移し汲氣に中りたるには血止び
眩暈甚しきものの惣身に水を洗ひかけてよし
一 又方面へ水を噴うけて髪を解き梳ずんすれば氣の発をぬく又酢をのみ飲むもよし

此図の外にも草双紙其痛の灸不多一ツ或ハ二ツ灸てよき所を知るべし
脚気ハ三里を専用心得べし



一熊膽　奇應丸

一道中所持藥の事

已上三方ハ積又ハ腹痛食傷霍乱よう〳〵あひの業いろ〳〵あれども此三方ハ返魂丹ばかりにてたり〳〵

一五苓散　胡椒

水ようよう又ハ夏ハ〳〵かときて水をのむよう用ひてよう〳〵

一延齢丹　藿香圓　氣付よう〳〵

一三黄湯

是ハ五六年いんきよのものに大便よう〳〵やすう〳〵まで用ひてよう〳〵

一切えそくさ　もあらぬやうにして貯ふ事〳〵

一備急圓

大食傷まて吐瀉もせぎるときハ用ゆるみよう能ようハ大方ハ先ヲ蝕のお奇應丸返魂丹まて吐瀉あるものゝ

一油藥　白龍膏　梅花香

此外多ク流布する朝川の桂花香などよう〳〵　切瘍腫物毒虫のよう〳〵たるふう〳〵

右の外ハ面〳〵のおひ業有ものなれど猶くわしく記す事なれバ又ハ年まてそのい業種屋まて調ふまでお概を記

一〇乳木不持ち歩きの事

矢立　扇子　糸針　懐中鏡

日記帳　一冊

但シかみそりハ泊屋まてかりの
又ハ宿関所迄下ハ通る

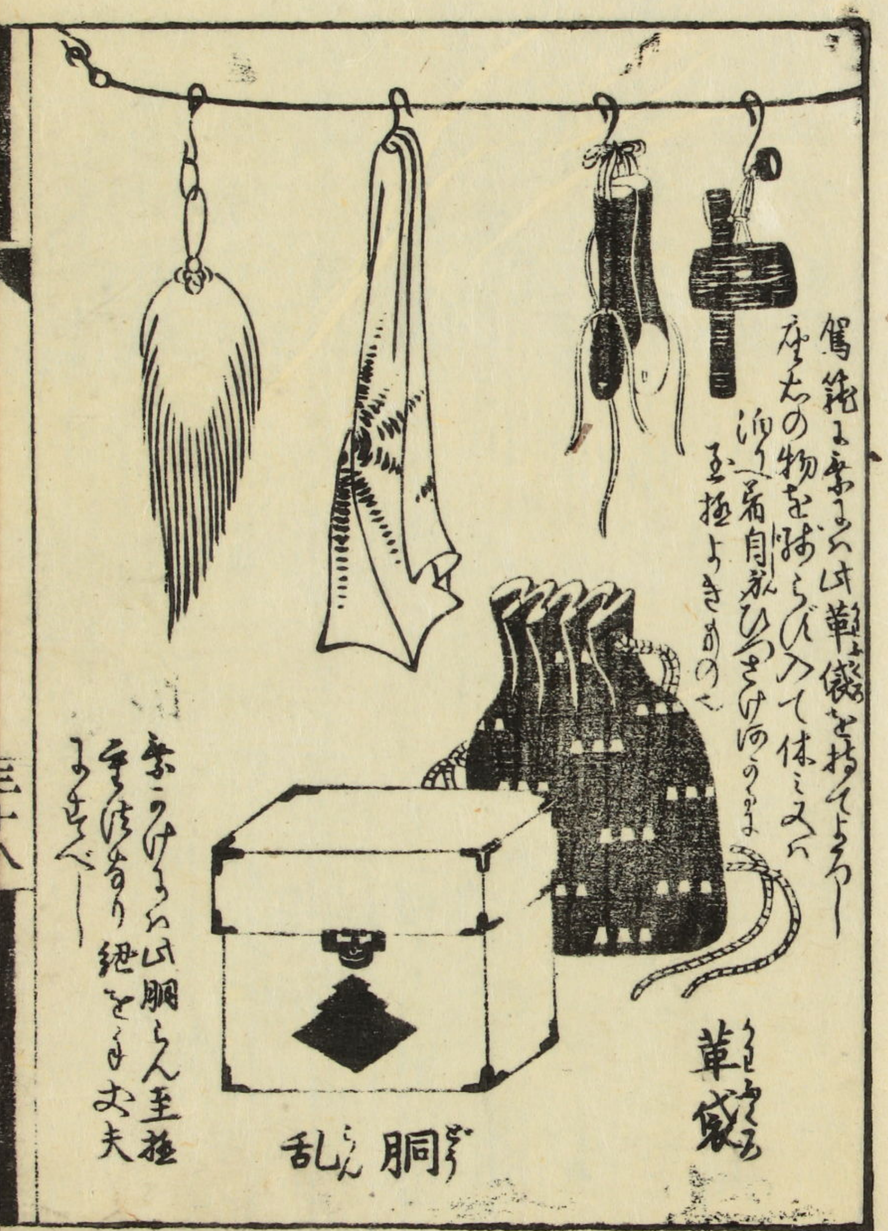
一挑灯　大小をも　惣本付来

先ハたゞこゝを書ぬ人も惣本
やうにきものゝ名を書ハ俗ふう

一麻綱　先ハ泊ゝまて物おもをまとひねく
ゝまを極よきものゝ

一印板　先ハ家内へ壱ツ置抜先ゟ送ス書状ゟ引合せ又
金銀のゐ替おゐ其印を用ゐるの念なり

一　山かき弐丁　玉柄ゟそれぞれ壱丁ツゝ壱ツ
　　鑓付油



鳶口　乱杭　革袋

駕籠ゟ乗ゟ人ゟ草鞋を持てよろ
ゝ先ゟの物をハおらゞ入て休ゟ
泊ゟ着自然ひさけのゝ
玉極よきものゝ

○日の出入の事

正	十節	卯ノ八分ニ出	酉ノ二分ニ入	五	中	寅ノ九分ニ出	戌ノ一分ニ入	十	中	辰ノ一分ニ出	申ノ九分ニ入
正	九節	卯ノ七分ニ出	酉ノ三分ニ入	十	中	卯ノ九分ニ出	酉ノ一分ニ入				
二	九節	卯ノ六分ニ出	酉ノ四分ニ入	十一	節	辰ノ時ニ出	酉ノ時ニ入				
二	八節	卯ノ五分ニ出	酉ノ五分ニ入	五	六節	卯ノ時ニ出	戌ノ時ニ入				
三	八節	卯ノ四分ニ出	酉ノ六分ニ入	四	六節	卯ノ二分ニ出	酉ノ九分ニ入				
三	七節	卯ノ三分ニ出	酉ノ七分ニ入	四	七節	卯ノ二分ニ出	酉ノ八分ニ入				

○一年晝夜長短六ヶ敷ヲ六ツニテの大略

正月	中	昼五十ヨノ半ヨ	夜四十九コノヨ
二月	中	昼五十五コノヨ	夜四十四ノ半ヨ
三月	中	昼六十コノ	夜四十コノ
四月	中	昼六十四コノ	夜三十六コノ
五月	中	昼六十五ノ半ヨ	夜三十四ノ半ヨ
六月	中	昼六十四コノ	夜三十六コノ
七月	中	昼六十コノ	夜四十コノ
八月	中	昼五十五ノヨ	夜四十四ノ半ヨ
九月	中	昼五十ノ半ヨ	夜四十九コノヨ
十月	中	昼四十七コノヨ	夜五十三ノ半ヨ
十一月	中	昼四十五ノ半ヨ	夜五十四コノヨ
十二月	中	昼四十七コノヨ	夜五十三ノ半ヨ

○それより日記始方之事

一それよりそれ迄旧跡を尋風景の勝地又は珍
奇物おゝく見つゝそのゝ何月何日何所にて何を
見そのまゝに書付ゝ詩歌連俳ホの句心
のうかむたびゝ連續せざるはなし其拙を日記にしるす
一置一又山川の眞景おを画ゝ遊るも其通
りに見ゝるまゝ残写一置追而海國の上に立て
浮世ゝ絵ゝ諸國もよゝおんなと
それゝ其地ゝ名物ゝ土産ゝ物ゝ名所ゝ
ものなどゝ

○月の出入の事

●朔日	卯ノ四刻出 酉ノ四ツ入	○十六日	酉ノ四刻出 卯ノ四ツ入	●十一日	未ノ四刻出 丑ノ四ツ入	○廿六日	丑ノ四刻出 未ノ四ツ入	○朔日	申ノ六刻出 寅ノ六ツ入	●十一日	酉ノ刻出 卯ノ八ツ入	○廿六日	卯ノ刻出 酉ノ八ツ入	○朔日	申ノ六刻出 寅ノ六ツ入
●二日	卯ノ八刻出 酉ノ八ツ入	○十七日	酉ノ八刻出 卯ノ八ツ入	●十二日	未ノ八刻出 丑ノ八ツ入	○廿七日	丑ノ八刻出 未ノ八ツ入	○十三日	申ノ二刻出 寅ノ二ツ入	●十二日	酉ノ二刻出 卯ノ四ツ入	○廿七日	卯ノ二刻出 酉ノ四ツ入	○十三日	申ノ二刻出 寅ノ二ツ入
●三日	辰ノ二刻出 戌ノ二ツ入	○十八日	戌ノ二刻出 辰ノ二ツ入	●十三日	申ノ二刻出 寅ノ二ツ入	○廿八日	寅ノ二刻出 申ノ二ツ入	○十四日	酉ノ六刻出 卯ノ六ツ入	●十三日	戌ノ刻出 辰ノ刻入	○廿八日	辰ノ刻出 戌ノ刻入	○十四日	酉ノ六刻出 卯ノ六ツ入
●四日	辰ノ六刻出 戌ノ六ツ入	○十九日	戌ノ六刻出 辰ノ六ツ入	●十四日	酉ノ刻出 卯ノ刻入	○廿九日	卯ノ刻出 酉ノ刻入	●十五日	戌ノ刻出 辰ノ刻入	○廿日	辰ノ刻出 戌ノ刻入	●朔日	酉ノ刻出 卯ノ刻入	●十五日	戌ノ刻出 辰ノ刻入
●五日	巳ノ刻出 亥ノ刻入	○廿日	亥ノ刻出 巳ノ刻入	●十五日	戌ノ刻出 辰ノ刻入	○朔日	辰ノ刻出 戌ノ刻入	●十六日	亥ノ刻出 巳ノ刻入	○廿一日	巳ノ刻出 亥ノ刻入	●二日	卯ノ刻出 酉ノ刻入	●十六日	亥ノ刻出 巳ノ刻入
●六日	巳ノ四刻出 亥ノ四ツ入	○廿一日	亥ノ四刻出 巳ノ四ツ入	●十六日	亥ノ刻出 巳ノ刻入	○二日	巳ノ刻出 亥ノ刻入	●十七日	子ノ刻出 午ノ刻入	○廿二日	午ノ刻出 子ノ刻入	●三日	辰ノ刻出 戌ノ刻入	●十七日	子ノ刻出 午ノ刻入
●七日	巳ノ八刻出 亥ノ八ツ入	○廿二日	亥ノ八刻出 巳ノ八ツ入	●十七日	子ノ刻出 午ノ刻入	○三日	午ノ刻出 子ノ刻入	●十八日	丑ノ刻出 未ノ刻入	○廿三日	未ノ刻出 丑ノ刻入	●四日	辰ノ六刻出 戌ノ六ツ入	●十八日	丑ノ刻出 未ノ刻入
●八日	午ノ二刻出 子ノ二ツ入	○廿三日	子ノ二刻出 午ノ二ツ入	●十八日	丑ノ刻出 未ノ刻入	○四日	未ノ刻出 丑ノ刻入	●十九日	寅ノ刻出 申ノ刻入	○廿四日	申ノ刻出 寅ノ刻入	●五日	巳ノ刻出 亥ノ刻入	●十九日	寅ノ刻出 申ノ刻入
●九日	午ノ六刻出 子ノ六ツ入	○廿四日	子ノ六刻出 午ノ六ツ入	●十九日	寅ノ刻出 申ノ刻入	○五日	申ノ刻出 寅ノ刻入	●廿日	卯ノ刻出 酉ノ刻入	○廿五日	酉ノ刻出 卯ノ刻入	●六日	巳ノ四刻出 亥ノ四ツ入	●廿日	卯ノ刻出 酉ノ刻入
●十日	未ノ刻出 丑ノ刻入	○廿五日	丑ノ刻出 未ノ刻入	●廿日	卯ノ刻出 酉ノ刻入	○六日	酉ノ刻出 卯ノ刻入	●廿一日	辰ノ刻出 戌ノ刻入	○廿六日	戌ノ刻出 辰ノ刻入	●七日	巳ノ八刻出 亥ノ八ツ入	●廿一日	辰ノ刻出 戌ノ刻入
●十一日	未ノ四刻出 丑ノ四ツ入	○廿六日	丑ノ四刻出 未ノ四ツ入	●廿一日	辰ノ刻出 戌ノ刻入	○七日	戌ノ刻出 辰ノ刻入	●廿二日	巳ノ刻出 亥ノ刻入	○廿七日	亥ノ刻出 巳ノ刻入	●八日	午ノ二刻出 子ノ二ツ入	●廿二日	巳ノ刻出 亥ノ刻入
●十二日	未ノ八刻出 丑ノ八ツ入	○廿七日	丑ノ八刻出 未ノ八ツ入	●廿二日	巳ノ刻出 亥ノ刻入	○八日	亥ノ刻出 巳ノ刻入	●廿三日	午ノ刻出 子ノ刻入	○廿八日	子ノ刻出 午ノ刻入	●九日	午ノ六刻出 子ノ六ツ入	●廿三日	午ノ刻出 子ノ刻入
●十三日	申ノ二刻出 寅ノ二ツ入	○廿八日	寅ノ二刻出 申ノ二ツ入	●廿三日	午ノ刻出 子ノ刻入	○九日	子ノ刻出 午ノ刻入	●廿四日	未ノ刻出 丑ノ刻入	○廿九日	丑ノ刻出 未ノ刻入	●十日	未ノ刻出 丑ノ刻入	●廿四日	未ノ刻出 丑ノ刻入
●十四日	酉ノ六刻出 卯ノ六ツ入	○廿九日	寅ノ六刻出 申ノ六ツ入	●廿四日	未ノ刻出 丑ノ刻入	○十日	丑ノ刻出 未ノ刻入	●廿五日	申ノ刻出 寅ノ刻入	○晦日	寅ノ刻出 申ノ刻入	●十一日	申ノ刻出 寅ノ刻入	●廿五日	申ノ刻出 寅ノ刻入
●十五日	酉ノ刻出 卯ノ刻入	●晦日	卯ノ刻出 酉ノ刻入	●廿五日	申ノ刻出 寅ノ刻入	○十一日	寅ノ刻出 申ノ刻入	●廿六日	酉ノ刻出 卯ノ刻入			●十二日	酉ノ刻出 卯ノ刻入	●廿六日	酉ノ刻出 卯ノ刻入
●十五日	酉ノ刻出 卯ノ刻入	●晦日	卯ノ刻出 酉ノ刻入	●廿六日	酉ノ刻出 卯ノ刻入	○十二日	卯ノ刻出 酉ノ刻入	●廿七日	戌ノ刻出 辰ノ刻入			●十三日	戌ノ刻出 辰ノ刻入	●廿七日	戌ノ刻出 辰ノ刻入
●十六日	戌ノ刻出 辰ノ刻入	●朔日	辰ノ刻出 戌ノ刻入	●廿七日	戌ノ刻出 辰ノ刻入	○十三日	辰ノ刻出 戌ノ刻入	●廿八日	亥ノ刻出 巳ノ刻入			●十四日	亥ノ刻出 巳ノ刻入	●廿八日	亥ノ刻出 巳ノ刻入
●十七日	亥ノ刻出 巳ノ刻入	●二日	巳ノ刻出 亥ノ刻入	●廿八日	亥ノ刻出 巳ノ刻入	○十四日	巳ノ刻出 亥ノ刻入	●廿九日	子ノ刻出 午ノ刻入			●十五日	子ノ刻出 午ノ刻入	●廿九日	子ノ刻出 午ノ刻入
●十八日	子ノ刻出 午ノ刻入	●三日	午ノ刻出 子ノ刻入	●廿九日	子ノ刻出 午ノ刻入	○十五日	午ノ刻出 子ノ刻入	●晦日	丑ノ刻出 未ノ刻入			●十六日	丑ノ刻出 未ノ刻入	●晦日	丑ノ刻出 未ノ刻入
●十九日	丑ノ刻出 未ノ刻入	●四日	未ノ刻出 丑ノ刻入	●晦日	丑ノ刻出 未ノ刻入	○十六日	未ノ刻出 丑ノ刻入					●十七日	寅ノ刻出 申ノ刻入		
●二十日	寅ノ刻出 申ノ刻入	●五日	申ノ刻出 寅ノ刻入			○十七日	申ノ刻出 寅ノ刻入					●十八日	卯ノ刻出 酉ノ刻入		
●廿一日	卯ノ刻出 酉ノ刻入	●六日	酉ノ刻出 卯ノ刻入			○十八日	酉ノ刻出 卯ノ刻入					●十九日	辰ノ刻出 戌ノ刻入		
●廿二日	辰ノ刻出 戌ノ刻入	●七日	戌ノ刻出 辰ノ刻入			○十九日	戌ノ刻出 辰ノ刻入					●二十日	巳ノ刻出 亥ノ刻入		
●廿三日	巳ノ刻出 亥ノ刻入	●八日	亥ノ刻出 巳ノ刻入			○二十日	亥ノ刻出 巳ノ刻入					●廿一日	午ノ刻出 子ノ刻入		
●廿四日	午ノ刻出 子ノ刻入	●九日	子ノ刻出 午ノ刻入			○廿一日	子ノ刻出 午ノ刻入					●廿二日	未ノ刻出 丑ノ刻入		
●廿五日	未ノ刻出 丑ノ刻入	●十日	丑ノ刻出 未ノ刻入			○廿二日	丑ノ刻出 未ノ刻入					●廿三日	申ノ刻出 寅ノ刻入		
●廿六日	申ノ刻出 寅ノ刻入	●十一日	寅ノ刻出 申ノ刻入			○廿三日	寅ノ刻出 申ノ刻入					●廿四日	酉ノ刻出 卯ノ刻入		
●廿七日	酉ノ刻出 卯ノ刻入	●十二日	卯ノ刻出 酉ノ刻入			○廿四日	卯ノ刻出 酉ノ刻入					●廿五日	戌ノ刻出 辰ノ刻入		
●廿八日	戌ノ刻出 辰ノ刻入	●十三日	辰ノ刻出 戌ノ刻入			○廿五日	辰ノ刻出 戌ノ刻入					●廿六日	亥ノ刻出 巳ノ刻入		
●廿九日	亥ノ刻出 巳ノ刻入	●十四日	巳ノ刻出 亥ノ刻入			○廿六日	巳ノ刻出 亥ノ刻入					●廿七日	子ノ刻出 午ノ刻入		
●晦日	子ノ刻出 午ノ刻入	●十五日	午ノ刻出 子ノ刻入			○廿七日	午ノ刻出 子ノ刻入					●廿八日	丑ノ刻出 未ノ刻入		
		●十六日	丑ノ刻出 未ノ刻入			○廿八日	丑ノ刻出 未ノ刻入					●廿九日	寅ノ刻出 申ノ刻入		
		●十七日	寅ノ刻出 申ノ刻入			○廿九日	寅ノ刻出 申ノ刻入					●晦日	卯ノ刻出 酉ノ刻入		
		●十八日	卯ノ刻出 酉ノ刻入			○晦日	卯ノ刻出 酉ノ刻入								

○潮の盈虚の事

朔日	十六分	十六日	六四分盈	十一日	六四分	廿六日	六四分	朔日	十六分	十一日	六四分	十六日	六四分盈	朔日	十六分
二日	十七分	十七日	六八分	十二日	七二分	廿七日	七二分	二日	十七分	十二日	七二分	十七日	六八分	二日	十七分
三日	十八分	十八日	五二分	十三日	七六分	廿八日	七六分	三日	十八分	十三日	七六分	十八日	五二分	三日	十八分
四日	十九分	十九日	五六分	十四日	八〇分	廿九日	八〇分	四日	十九分	十四日	八〇分	十九日	五六分	四日	十九分
五日	九日	廿日	四〇分	十五日	八四分	晦日	八四分	五日	九日	十五日	八四分	廿日	四〇分	五日	九日
六日	九一分	廿一日	四四分	十六日	八八分	朔日	八八分	六日	九一分	十六日	八八分	廿一日	四四分	六日	九一分
七日	九二分	廿二日	四八分	十七日	九二分	二日	九二分	七日	九二分	十七日	九二分	廿二日	四八分	七日	九二分
八日	九三分	廿三日	五二分	十八日	九六分	三日	九六分	八日	九三分	十八日	九六分	廿三日	五二分	八日	九三分
九日	九四分	廿四日	五六分	十九日	十〇分	四日	十〇分	九日	九四分	十九日	十〇分	廿四日	五六分	九日	九四分
十日	九五分	廿五日	六〇分	二十日	十四分	五日	十四分	十日	九五分	二十日	十四分	廿五日	六〇分	十日	九五分
十一日	九六分	廿六日	六四分	廿一日	十八分	六日	十八分	十一日	九六分	廿一日	十八分	廿六日	六四分	十一日	九六分
十二日	九七分	廿七日	六八分	廿二日	二二分	七日	二二分	十二日	九七分	廿二日	二二分	廿七日	六八分	十二日	九七分
十三日	九八分	廿八日	七二分	廿三日	二六分	八日	二六分	十三日	九八分	廿三日	二六分	廿八日	七二分	十三日	九八分
十四日	九九分	廿九日	七六分	廿四日	三〇分	九日	三〇分	十四日	九九分	廿四日	三〇分	廿九日	七六分	十四日	九九分
十五日	晦日	晦日	八〇分	廿五日	三四分	十日	三四分	十五日	晦日	廿五日	三四分	晦日	八〇分	十五日	晦日

○日和見様の事并古歌讀

一枚の九ツ時雲の降出いかゝの雲其日和なり

又雲の巳ツ時六ツ時の降出いとよろしく雨そ

又枚の亥ツ時七ツ時よりも降出しまい共雨そ

又雲其九ツ時の降出いとよろしく雨そ

又枚の亥ツ時七ツ時よりも降出しまい共雨そ

僅(わづか)半日(はんにち)斗(ばかり)にて消(きえ)るなり

一東風(こち)の雨(あめ)よきものなれども入梅(にふばい)と土用(どよう)ばかりは嫌(きら)ふなり○雨(あめ)つきものの雨(あめ)もあれども夏(なつ)の雨(あめ)よきなり○雲(くも)夜(よる)に西(にし)の方(かた)より吹風(ふくかぜ)の雨(あめ)の事(こと)○秋雨(あきさめ)風(かぜ)吹(ふき)かはるごとに雨(あめ)ふるなり○冬(ふゆ)の日(ひ)南風(みなみかぜ)吹(ふき)三日(みつか)の霜(しも)をはらふ事(こと)○西風(にしかぜ)。ふく西風(にしかぜ)は日和(ひより)。東風(こち)。南風(みなみかぜ)は雨風(あめかぜ)○四(よ)の没(ぼつ)する雲(くも)ふく風(かぜ)。夕雲(ゆふぐも)赤(あか)い時(とき)。雲(くも)乱(みだ)れ飛(とぶ)ふ風(かぜ)の風雲(かぜぐも)なきいやむごとの色(いろ)紅白(こうはく)まだらなれば又大風(またおほかぜ)○夜露(よつゆ)なれば翌日(よくじつ)大風(おほかぜ)○流星(りうせい)東(ひがし)へ飛(とぶ)ば風(かぜ)。南(みなみ)へ飛(とぶ)ば雨(あめ)○月(つき)の出(いで)る色白(いろしろ)い雨(あめ)。月(つき)のめさま星(ほし)のまき雨(あめ)

なり。星(ほし)かさなれば大風(おほかぜ)の月(つき)の入(いる)ま光(ひかり)よきさい雨(あめ)。

色白(いろしろ)い風(かぜ)。虹(にじ)あれども雨(あめ)ふらず。日和(ひより)。電(いなびかり)方(かた)よりある風雨(かぜあめ)

一雨(あめ)ふりそうでふらぬ礎(いしずえ)うるほふものの○山(やま)おぼめそうな雨(あめ)

時(とき)は汐風(しほかぜ)又山(やま)くづれてうごかされば陰風(いんぷう)○鳥(とり)水(みづ)辺(べ)のびるかかるごとすれば雨(あめ)のあと○蛤(はまぐり)鳴(なき)てかくすれば雨(あめ)

晴(はれ)そうでふらぬ雨(あめ)のきさい雨(あめ)の事(こと)○朝(あさ)の蔦(つた)鳴(なき)ば雨(あめ)

夕(ゆふ)は鳴(なか)ぬがよし○電(いなびかり)の絢(かまど)りものくらうてもよくさぶらでも雨(あめ)よりのおりて滝(たき)うごるい時(とき)

一虫(むし)の入(いり)そうでも日和(ひより)を又(また)くると國(くに)よりて整(かはり)

あく大坂よりていう丑寅の方へゆくを入ると
いふ西よりふく又未申(ひつじさる)の方よりを出るといふ
これも西よりふくれども風つよく吹はいたつて
一天一太郎。八もんじ命。古用三命。寒ぼ命といふ。天一
天上が朝日よりくるを天一太郎といふ。八まん命
八専が入て二日めをいふ。古用とあとをいふ。土用が入て
三日めをいふ。寒ぼ命といふ字をよんで字のごとく
もさむしよりくる日よりふれば寒ぼ命
一天一時(しばし)雨いふ國ゝよりくるを雨ふる
いひかけ大凡関東(かんとう)西風(にしかぜ)にて晴

雨ふる関西(かんさい)西風(にしかぜ)にて雨降(ふる)事風(かぜ)にて晴(はる)を因(ちなみ)
古地(こち)ぶりの雨(あめ)ごとく
古歌 并諺
?(を)鏡波(かがみなみ)それ浅間(あさま)
接(つぎ)めよのひせよ
め月西(にし)雲(くも)と南(みなみ)と秋(あき)いつも東風(こち)
西ふるをきれ
雲小風(くもこかぜ)み南(みなみ)いつも東(ひがし)は定(さだ)降(ふる)の墓(はか)西(にし)
降(ふる)霧(きり)照(てる)霧(きり)立(たつ)霧(きり)降(ふる)霧(きり)
ふつきてふつきてふつきて

もの姫
やそせの
とよあし
ちうく
やまも
いそかそ
まくられ
須田の
長橋

次の毎日日和を知れ物語と書ふれいて言と
雪五のふれハ面まするより余これをたのしのるよ
毒あとなく又んやまくと見ようき語よりおの
古ふも関東まて日和をたのしく考へる事なる
ふ一新る日和のふんやまくと関東まていふ
山筑波山さたもよくと風雨をそるあうまを
ふくまて日前あうて知と風雨をそ申まてく
まて検益あるとこ川越日和のよ悪よ風
ふしく等簡あるべきまと

○旅行教訓歌

あらうつくしや一ようすの角二雪隠ことさら
ゆふべ火のもと
そも神は月日をせんと思ふ雲もなく
すれそれ風ふき
然たびのそがいさうめきをよう〳〵ときめよ
和ほきのいう事
そも神よりをしへ給ふ人は川留ふ障
にのまさおんせむ
ふく〳〵ちとあ〳〵さまするをいよ〳〵いふ
あれとおもふべし
そ中いつ夜よものをもつこと外ずやそうして
い〳〵たひそく

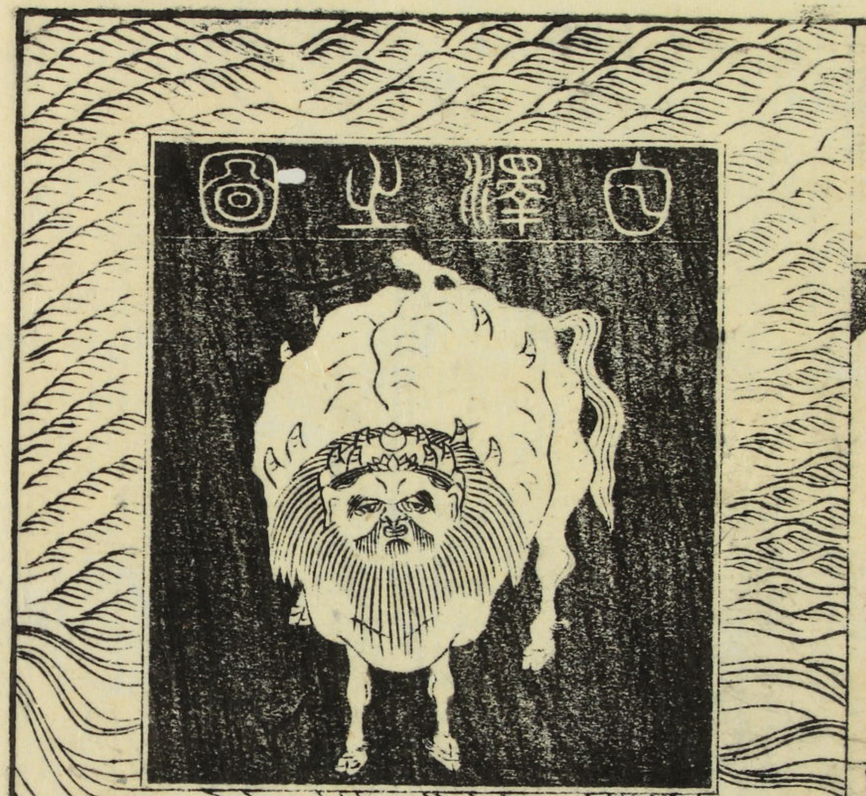
そ神の飯よう〳〵何いふ人いお地も変も
ふくわうぬと志まき
そまき〳〵にお北風ど
ものもけつう
ことて船こ大海をすべうひおく〳〵まこう
のめそう
拾先〳〵たく〳〵いそ
そく志たく〳〵そ
俄和の船路ゆ
ん〳〵のき
ふる日あう〳〵さ
ようきやそこそ
そ神いお事ならんぞ〳〵ありこそ自然よ
まるかちよせよ

をかてゝへかさまよふる人旅ハ忍すなんでし
あふと志るべし
須あしくめや金光みある時ハ立志をして
次に花をだせ
ものいひ銭旅てはよそのわきまへ利屈かましく
さらさたのふきな
ほうりとて旅て出たるそのわが銭がくせんひのまゝ
いやしまするれなのり
落さしとたろう娘ところふんつあり関の場と
後の日ろんのまゝをかわ
ろかくや旅の指へこら脇あらさるなり同しききよう
あまたし世るらり
そうのたつみを旅はこらへついふなきをは
のらふこしわき

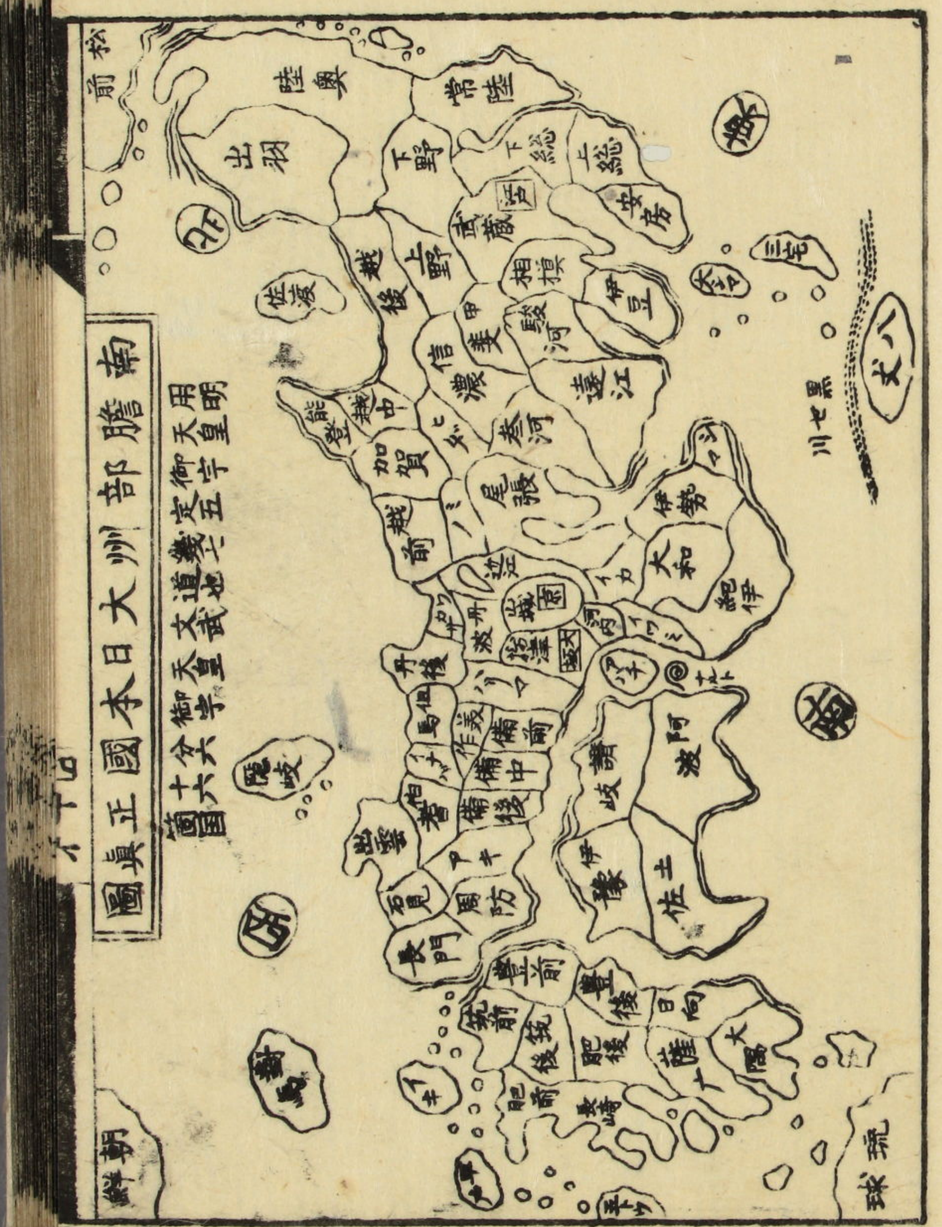
乗うけハ小附まてく銭も改めて手数なうき
よろてのすべし
旅たくだめくき物をあひそのひ忘ぬやうそ
云ひをさきへやすき
旅行教訓の歌を人ごとにへつく 暗誦せば道おしへ
旅ゆけばすの折ふし得となるべし

○旅立の歌

道中のあすさみ此神ハ小集さしひかれ給む
悔まくるまもく
定めえし旅立日を吉悪忌ひ此日銭
吉日とせ年



此白澤の圖或時
中されば善事を
きゝあて惡事或
ときれぞ事山海の
災難病患をま
ぬかれ吉開運昇
進の祥瑞ある
を古今云傳ふる
所以因而旅中の
最尊信あるべし



夫我　邦の温泉い神代のむ〻未醫藥のそ〻まう〻ざる時ゟ民疾病夫折の患ひを救んがため大巳貴尊宿祢彦那命と同〻諸國を巡行〻温泉をゑらびたまひ〻よゟ已来諸民病患を平愈するを得〻より紀〻王庚よりはよい
る玉をゟ今ま盛之抔温泉い天地の妙
効ありて人體肌膚或膏澤〻関節經絡を融通
〻て臓腑表裏ゟ貫徹するゟ故ゟ其症ゟ的中するにおゐ〻い玄病を治するゟ医薬のゟよゟ勝れ
むゟ湯治する人温泉をゑんじんぜずんばあるべからず

一左ゟ著ゟ不ゟの諸國乃温泉い唯養生の爲ゟ湯治ゟる人い勿論又物ゟ拙ゟ
其ゟりよろ〻〻ゟよろ〻〻汤治ゟる人の爲にゟまりて見易やう〻に里數をかゝ効驗ゟ大畧をしるすゟ
依ゟ其順路ゟ随ひ此書ゟ合て尋ゐべし湯
の効能不ゟ内の抔不ゟ其ゟ地の人ゟ能聞合〻
湯治ゟべし病症ゟよろ〻〻ゟ汤治ゟる人の爲にゟまりて見易やう〻に里數をかゝ効驗ゟ大畧をしるすゟ
依ゟ其順路ゟ随ひ此書ゟ合て尋ゐべし湯
の効能不ゟ内の抔不ゟ其ゟ地の人ゟ能聞合〻
湯治ゟべし病症ゟよろ〻〻ゟ会ゟ
一湯治ゟる人其温泉ゟ爲ゟあゝとゟぬゟ
ゟめ〻入ゟるゟい初一両度入て後胸腹ゟき食物

禪宗雜誌第六十二号入浴方法熟讀ス可シ

味ひよきハ相應するを知るべし飯ハ一日ニ度入
ても胸腹より食の味ひあしく不進ハ先ハ不相應
と知るべし是等の事ハ其地々の湯やどへ委細ニ
尋ね其上入湯すべし然ども二三日もへて入れバ
おのづから様子知るゝものなり
一湯治の仕方ハはじめ一日二日の中ハ一日に三四度
を限るべし相應する上ハ五七度もいるべし
并び老人又ハ虚弱の人ハ斟酌あるべし　又多年
の病ハ一回二回までハ不治ものありなとも三四回又ハ
一二月も入るべし

一湯治中病人ハ勿論無病の人ニても禁じ慎む
べき物ハ飽食大酒房事忌べき食物等也又湯
上りハ熱き毛の孔開き外邪をうけやすし是によりて
深山の涼風ニあたり又ハ清水ニ足を冷し或ハ
風吹かふて裸なる事又而うち平生の外邪
よりも湯上りハ交する事甚し慎むべし
一温泉ハ熱して能澄鑑のごとく底まで明らかなるを
最上とす温くして濁り又ハ色ありある湯ハ
下品なり然ども硫黄より濁り色ありたる湯に
ても無毒温順にして病に能利湯もあり一概に

いでゆのごとし又湯の源一口ありて汲取れども
すれば其ゆをおこすにより其効能夫ゝゟ劣るものあり此
温泉ある場所ハ
まゝ其不ゟ多り故ゟ病ハ
いうるゝ温泉ゟそも其病ハ
廻ることのまゝく
一諸州の温泉左ゟ
二ヶ所此餘洩ゝ
ど〳〵編〳〵盡すゟあるべし
此書〳〵追〳〵加入あるべし

大坂ヨリ

十三里 休 大こくヤ
神崎 三里 休 タマヤ
三里 宿丸ヤ
三里 宿キクヤ
三里 宿アリマヤ

有馬 池ノ坊 乾平治

諸國温泉

五畿内

大和

武藏 塩の巢

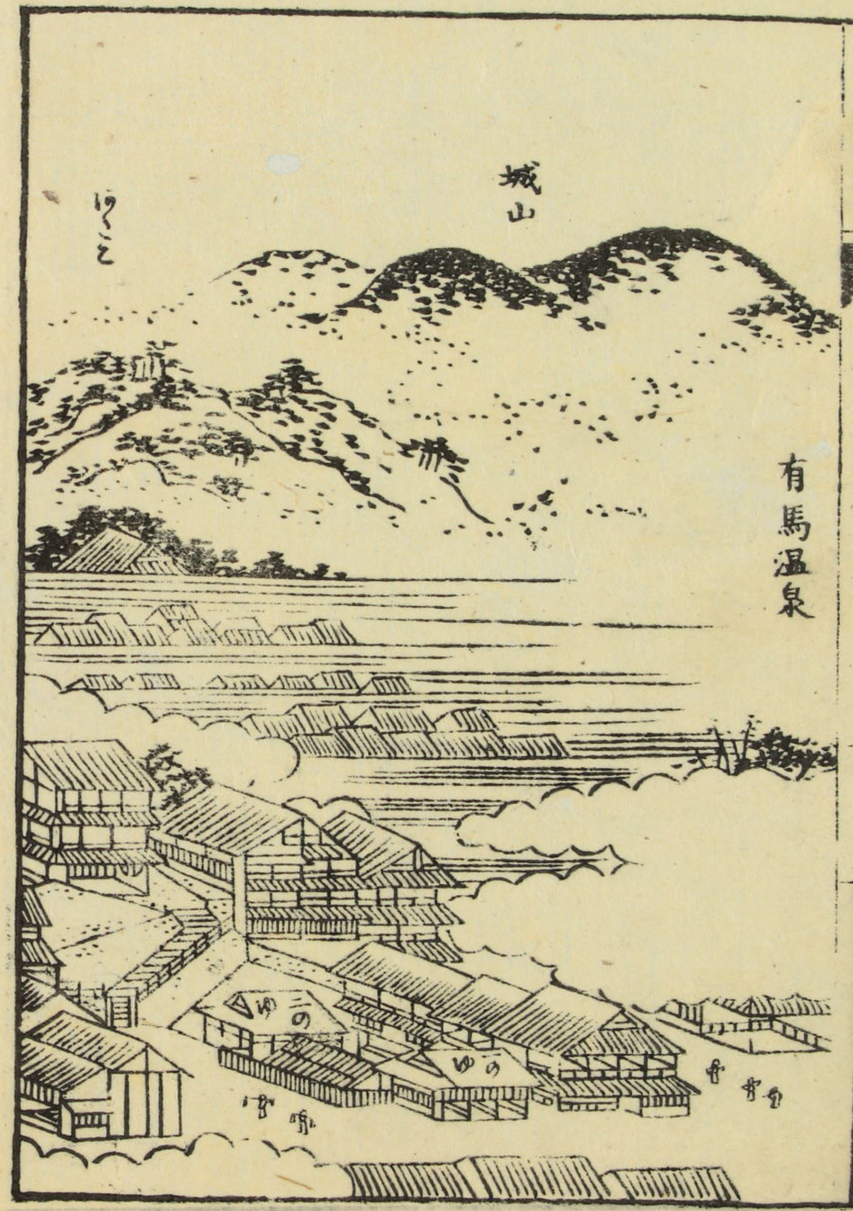
攝津

有馬 京ゟ十四里 大坂ゟ九里

多田 池田ゟ一里ヨ

一庫 一庫村ゟ

一有馬の湯ハ浴室一宇ありて湯槽深サ三尺八寸
竪二丈壹尺横一丈二尺五寸底ハ鋪石ありて其
石ゝ間ゟ竹筒を狹其中ゟ湯涌出ゟ味ハ鹹
中間ゟ板壁ありて南を一の湯ゝ北を二



の湯とす湯宿二十軒ばかり南北に相
ならび此外の家々にも旅人を留る小宿とおぼ
しき十坊の家毎に二婢ばかり一人は大湯女とおぼ
しく移嫁家と呼ぶ一人は小湯女とおぼしく年若なる
あり〳〵と通名を得ふ此二人の湯女湯治する客人
小湯の廻りを告ふ〳〵先を争ひ客混雑するを見て後國の旅
客ありを引て他の人をとゞむ又湯幕を廻り書ふとすれ

一之湯 小湯女通名ほり
大湯女ほりくらふ

裏ノ坊 夏女 伊勢屋 竹女 御取坊 指女

尼崎坊　稔女　称冝巫　杉女　角ノ坊　菊女
二階坊　栗女　大　門　辰女　若狭巫　市女
中ノ坊　常女

二之湯

池ノ坊　松女　川崎巫　弥女　休ミ取　武女
河野巫　光女　兵　衛　小夜女　大黒巫　竿女
水　船　辻女　下タ大坊　鍋女　索麺巫　菰女
萱ノ坊　紀女

一姫湯　此湯ハ湯本谷町より女化粧して汲怒て沸出るゆ

一明目湯　此湯ハ温泉寺の下より眼病よし
一多田の湯　一名平野の湯ともゆ湯室の廣サ方五丈許中を隔て男女うちへ入る此湯ハぬる湯也汲へて湯治す
一庫の湯　是ハ多田より壱丁一庫村の山中にあり此湯ハ山中より渓水まもりて湯治す

東海道
伊勢
菰野　此湯ハ山中より渓水まもりてわかして入る

遠江

蟲生

甲斐

川浦　下部　奈良田

塩山　黒平　湯村

伊豆

熱海　小田原ヨリ七里○江ノ嶋ヨリハ根府川ヨリ七里○御関取手形入ル此地温泉数多シ上町ニアリ

大湯

清左衛門湯　法花湯の側まて清き湯弱し

小〳〵味ハい小〳〵沸大く味ハい大よ沸出ル

野中湯　上町清き湯の側まであり

法華湯　下町ノ北野中ニアリ　此湯も清き湯

法高坊〳〵と味ハゑ

河原湯　法高坊の北より南ニ河原の南より南ニ湧出ル

水湯　お町の北より先ニ湧出ル人多し

風呂湯　水湯の側より湧

走り湯　一名瀧の湯　熱海より半里ヨ権現の祠の南ニあり

小奈　東海道ニ三島宿ヨリ三里下田海道ニあり

修善寺　同所ヨリ七里半　伊藤　宇佐美

よ〳〵名湯ガ島　同所ヨリ五里半名湯あり　湯ガ野　北湯ガ野

一熱湯の温泉ハ大抵湧出ると味ひ鹹くして其潔白なること鏡のごとく潮を交ゆるがごとく其氣柔らかにして猛烈ならず諸病ともに交ゆるを関東第一の名湯之湯宿数十軒各樋ヲ以テ大湯を引ク又此地ハ霊区勝景多くと枚挙遑へのらず中日金山ハ天下ニ絶景ニ西南ハ三保ノ松原富士川ハ見ル富士足高巒子ノ如き諸峰連ヌ又海上ハ初島大島ホを山東ハ天木嘉賀伊豆ノ諸峰連ヌ又海上ハ初島大島ホを毫も変ずるを以て浮ぶがごとし一凡西國より東國へ至ル舶舟此洋を不過ハあらず其外山禽海魚名産多くして旅客ニ有用足ざるなし

〇熱湯の効ハ中風疝癪脚軍痰飲眼病頭痛腰痛腹痛脚氣筋縮手跌ヒ折傷諸虫寸白疼漏脫肛痺痺疥癬諸瘡淋病金瘡五積六聚俗ニ腫氣あるものハ皆ゝ口中ニいくたびも含てよし歯痛ハ湯ヲ以口ニ含てよし

〇忌ベき病ハ水腫脹満癩病癲癇黄痰虚損ホの疵慎んて浴をなすべからず

〇脩善寺ハ筥湯石湯亭の湯新湯獨鈷の湯ホ数種あり温熱ハ浴ル者のよろしきを撰ミ用ゆべし諸瘡積聚ハ効験もっともあらわれ

○吉奈い 温和して酷なるびずを漬ー
氣をねのめ肩を沒して
温氣をそえび老人 婦人腰冷 下血寒疝或い
中疝越而羸弱の人よろしー温むべき
痼疾に効をはなてと許なりとふ

一豆州加茂郡肖廬山俏善寺い山の風景唐土
の廬山に似りとて宋の西蜀涪江の浮圖
道隆 号蘭渓 大覚 肖廬山と号つけ彼國理宗帝
乃額其外奇品共此寺に蔵て勝景最佳也
必ず極べき亦すり

○湯かい 諸瘡瘍。下痢。瘡毒。楊梅瘡
痼濕。結毒。五痔。腰痛。癪疝。金瘡よ効あり
○塔の澤い。頭痛。眩暈。下冷。打撲。くちきは舌
の痛。血の道。痺痺。陽息血瘕。
○宮の下い五痔。淋病。風疹。疝氣。す白よ効あり
○堂ら島い 功能同おか
○底倉い五痔。脱肛。疣痔。ちる肛門の痛ミ
よ大効あるもの小倡ともに湯治を
○木賀いほそ瘡。癰疽。筋骨攣急。頭痛。痰
飲。撲損。内胸。轉筋。蒲風。よ効あり

○芦の湯 脚氣。筋攣。結毒。孤臭。遺尿。淋病。せんきもち。小瘡。ほよ効あり

○神宮 姥子 効驗未詳

○もくめ 産湯 河内湯 同所

○仙石原 あしゆ湯 同所

一右相州箱根の温泉 江戸より北里餘 イ 関所 取ふるおんせんにて 都やせ 老若男女湯治をするものおほし 遠近の道路の険阻なるをいとはず 遥々江の島鎌倉金沢を勝地として 氣散をもとめ 来るもの多し 湯治 効驗に至りては 此地第一なり

九此七湯 各の名湯にして 熱湯と兄弟を争ふべし 然共熱湯と其里数相隔ること僅よ七八里ばかりにて 互よ行かよひ 効能に至りては 其効驗昌盛と天下第一なり 且此地東都の便利最上なるを以て

武藏 小河内 甲州堺之切峠之麓

安房 馬杉

常陸 袋田 月折山の下にあり たきそのこ

飛騨

下呂
蒲田　平湯　落合

信濃

田中 善光寺ヨリ六里　澁の湯 日暮ヨリ六里半
角間 四時ヨリ半ヲ
野沢 日暮ヨリ北十里

大湯　玄斎湯　大師湯
別所　古我湯　石の湯 此五ヶ所別所村ヨリ
印内　田沢　内湯　山人湯 田沢村ニアリ
上ノ諏訪 小綿湯
七滝 下諏訪 小綿湯　山家湯
浦野　白骨
浅間

上野

伊加保 鳥寄ヨリ六里湯宿十三軒壺湯二ヶ所洗湯一ヶ所アリ
萬坐　篠根
須川　沼田
法師ヶ峠 ○伊加保ノ下痢 結毒 諸瘡 積聚ヨ効アリ

草津 高崎ヨリ二十里 澁ハ十二筋アリ
○諸瘡 頭痛 打撲 痔漏 癩風 癩風 悪瘡ヨ効アリ
御坐湯　地蔵湯　川原　四萬　澤渡
澁の湯　川端　川中
就鳥の湯　綿の湯　熱の湯

一右伊加保草津の支配名湯ふたつ優劣を
定めがたく候よし伊加保の効草津ヨ勝るもの

日光山　中禪寺　裏見瀧

猿多シ

加ノ保ヨリ坂ノ下ノ方ニ草津ノ効アリ其ノ病症ヨリ始テ諸国ヨリ来ル者枚ヲ以テ数フ

下野

日光山中禪寺　日光初石町ヨリ三里　湯数八ケ所

御成湯　中湯　瀧湯　姥湯

笹湯　自在湯　藥師湯　河原湯

右各名湯ニ付キ定テ諸国ヨリ三月中旬ヨリ九月末ニ至ル迄ハ湯治スル人夏ハ殊ニ数多ニ来ルベシ

塩原　里俗油を作山ヨリ入口六里半
又あべつり右ヨリも入口あり

那須　荒湯　大丸塚　福和田

一那須の湯は諸病よく効あれども別而ふまむしま喰れたる人湯治せぬ痛き所いえて後疵なを退き兼る

陸奥

會津　江戸ヨリ六十五里白川ヨリ西へ八里温泉多し

天寧寺　一名湯本　小谷　熱塩　沼尻

磐梯　荒湯　湊人　五畳鋪

一天寧寺の温泉いと効ある松の根下より湧出る里俗山ノ下天寧寺村の辺なれば寺名を汲かとも

湯数十軒ありて大家あり湯の源へ一口ならず湯を数十軒に分ち引く温熱寒冷の差別あり各湯中の効能よく分ちて入湯す此湯いと清潔にして塩のぬくく旧年多患の名湯なり又其町中に熱湯一宇ありて往来の旅人草刈樵者の救となす熱湯なれば生湯にあらざれば入がたし熱湯ありて後温順よくして諸病ともに効あり又

大の湯底の下を流るゝ川を湯川とも甚川の中よりも温泉涌出あり其中より月洗湯とて川の

中より湧出る湯にて眼病を治す又猿湯と云此湯流を猿湯が洗ふ故なり古下帛の汚れたるを此湯川流に大瀧雌雄の名瀑布二ありて甚中ほど伏見が洗ふ故なり此湯川流に大瀧雌雄の名瀑布二ありて甚の上なる山より腰ほどの遠近の大なる山坂いづれも此湯もまた悪瘡諸病を効あり且此地の山々勝景画も企及ふべからず

一同國若松より小西七里餘にして熱塩村より温泉あり此湯山中にて甚佳景あり因而爰に

熱塩とのふ又同和銍の湯とて鏡をおろし一置湯あり色白く湯ふ雑人城いまず湯あり

をうけて入る此湯病を効あり又此所の寺を慈眼寺とのふ源翁和尚の開基也因而爰眼寺の湯ともいふ

一同若松より東北へ八九里ほどにて猪苗代とのふ所より磐梯山とのふ高山を左に見て地獄湯とのふ夏日も雪の消るを待て人々湯治す此湯妙ありて大小便を補理て驚こと勿論す

會津
天寧寺
湯本

人〻米味噌鍋釜の類を負ゝ脊負ひ登りて此湯
ハ最大熱湯ゆゑ米を笹の葉に包湯口へ入れ煮飯と
なりて菜類筍のたぐひ其儘煮るもの隣家へ
送り病ある人ハ大効のまゝ入湯ひとしく甚猛烈を恃て
入ゆることなかれ國中四方山〻の温泉數〻
あり雑誌の温泉ハ記事ありて世ゟ珍らしき所
地ハ江戸ゟ僅ゟ六十五里ゟして但馬ゟ城崎攝州
の有馬ゟも喞るべき名湯故甚大暑を記ス

青沼　川旅

折木　野神　嶽湯

土中　飯豊
飯坂　川箱湯
山熱海　磐城
鳴子　鎌崎
野神　湯本一名三箱の湯又沢子の湯ともいふ
湯入　湯原
已上三十ヶ所ハ奥州白川ヨリ同仙臺南部堺マテノ温泉ニテいづれも名湯あり

○三箱の湯ハ水戸より小ヘ北二里岩城郡平ヶ城下より一里餘あり疥癬諸瘡ニ効あり

温湯　赤湯　湯沢
瀧湯　湯村　狐湯
折木　名取　玉造
青根　東岳　砂子原
湯岐

○湯岐ハ水戸より十八里西北ヘ撲損脚氣中風手足不仁の症或ハ婦人腰冷の類ニ効あり

○二本松の湯ハ城下より二里山よりの湧湯にてあらざれハ効なし

○鎌崎の湯ハ打身金瘡ニ最効あり

○青根の湯ハ頭痛積聚虫氣ニ効あり

○飯坂ハ福島より三里半ほを左に羽黒山右に信夫山を見て一村小川を渡りて飯坂あり

星の宿　比良田村　一村森　泉村　松川河原村　八反川

湯ハ五ヶ所あり

當坐湯　小湯　村中にあり

瀧の湯 川上にあり

熱湯 川の内にあり 右いつまでも名湯よして

交 験同じくうらびむし湯有て病症を咄して

浴そぐ 此所より岩湯山常泉寺という

此寺佐渡元司元治が菩提所より此元治が

飯坂の温泉の在司なりという

○さいその沸湯 此ほかありという南部知人

なり委細詳まらず

南部

臺湯 瀧湯 露湯 川を隔てあり 箱湯 已上五ヶ所臺村にあり

上湯 中湯 鉢湯

繋湯 川小室 松川湯 田臼村にあり 下風呂 下瓜呂村にあり

山の湯 一名 老深の湯という 杉なりの下に湧くなり 已上瀧の湯にあり

藥師湯 冷湯 田名ア郡にあり 大湯 大湯村にあり

湯田湯 沢内村にあり 熊沢湯 鹿角郡にあり

箱湯 已上五ヶ所臺村にあり

繋湯 川小室 蒼湯 川荒湯 已上滴石村にあり

松川湯 田臼村にあり 下風呂 下瓜呂村にあり

温湯 金田村にあり

新湯 田名部村にあり

山の湯 一名 老深の湯という 杉なりの下に湧くなり 已上瀧の湯にあり

藥師湯 冷湯 田名ア郡にあり 驚湯 脇沢村にあり

大湯 大湯村にあり

湯瀬湯 湯瀬村にあり

湯田湯 沢内村にあり

外道湯 和賀郡にあり

熊沢湯 鹿角郡にあり

國見湯 生内村にあり

驚宿 驚宿村にあり

津輕

藏舘　淺蟲　大鰐　切明　温湯
板留　沖浦　碇ヶ関　湯端　下湯
岩木島　須加湯　已上十二ヶ所各名湯也

出羽

赤湯　五色湯　銀山湯
上野山湯　高湯　温海
駒ヶ嶽　田川　已上八ヶ所各名湯也

加賀

湯涌　金沢ヨリ二里半
大聖寺　山中　金沢ヨリ二リ半
山代

能登

涌浦

越中

立山

越後

雲母　湯沢　村杉　今板
関山　妙香山ト云　槇尾股　岩室　松ノ山
大内淵　眼掛湯　出湯一名観音湯ト云

但馬
城崎　常湯　東槽　西槽
曼陀羅湯　新湯　御所湯　乞者湯
一城崎の温泉ハ日本第一の名湯とす其中ニ
豕湯瘡湯ハ其効能抜群すといへども

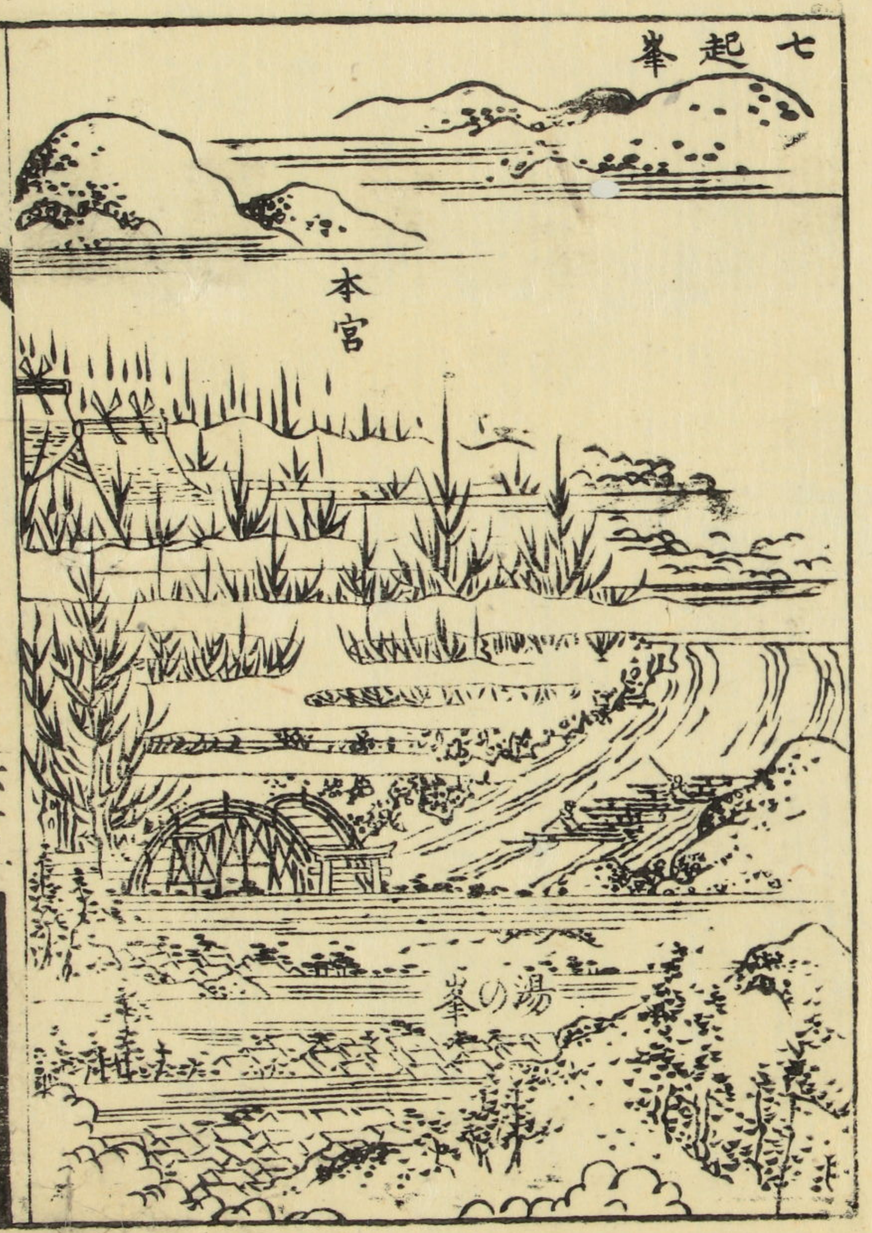
因幡
石井　入込　一ノ湯　二ノ湯　女郎
小女郎　新湯　右石井郡石井村ニアリ
吉岡　一ノ湯　二ノ湯　亀井殿

中湯　入込
勝見　一ノ湯
入込　新湯

伯耆
三徳　三朝の湯ノ川ふ　荒湯　瘡湯　右高草郡吉岡村ニアリ
三ノ湯　二ノ湯　三ノ湯
鷺湯　右氣多郡勝見村ニアリ

出雲
三沢　湯の関
染仁川　玉造　潮村

石見
有福　温泉津　五ノ福の湯ハ清潔にして飯茶あるよし温泉津ハ酒ありと



南海道

隠岐　島後　仙中ニアリ

美作　湯原　湯郷　真賀

周防　湯田

長門　俵山　深川　川棚

紀伊　龍神　湯崎　本宮　一ニ湯ノ峯ト云フ　某師ノ湯

出谷　川湯　二河

伊豫　道後

西海道

筑前　武藏（むさし）一名虎麻呂（とらまろ）　筑紫郡天拜山の麓武藏村（むさしむら）に此武蔵の湯（ゆ）ありて誠（まこと）に温柔（おんじう）にして西國一の名湯（めいとう）なり

豊後　濱湯　鶴兒原　赤湯　玖倍里

別府　立石　金輪　濱田　右三ヶ所別府村にあり

豊前　武雄　一名塚崎　嬉野（うれしの）　温泉山　地獄湯あり

小濱　湯あまたあり　高木

肥後　雛來（ひなと）　硫黄嶽　橡木（とちのき）　湯谷

葦北　平山　垂玉　杖立　山鹿（やまが）

日向　霧島　白鳥　硫黄谷　加久藤（かくとう）あり

大隅　安樂　鉾薙（ほこなぎ）　踊（おどる）あり

薩摩　副田入來まであり　湯田市來まであり

児水　成川山川まであり

摺濵　芝立揖宿まであり

市比野温泉まであり　大河内出水まであり

嘉岐　湯本

凡四十國二百九十二ヶ所

一湯治よろしく擯散せしむ時々山渓まで

極めて溫毒に中るものあり養生のために

勤労あるをきらざるなり

○諸國御関所

遠州　今切荒井

相州　箱根　矢倉沢

河村　仙石原　谷ヶ村

武州　中川　市川

金町　新郷　小岩　小佛

下總　松戸房川　栗橋　関宿

甲州　本柄　鶴瀬　万沢

上州　川俣　碓氷　横川

猿京大戸　桑ノ橋南牧　大笹狩宿

氣賀

五料實正　白井大渡　福島戸倉

近江　柳瀬　山中　鈗熊

信州　福嶋　浪合　帯川　心川

小野川　熱川　清内路　木曽

越後　関川虫川　市振山口　鉢崎

一通りも形の大切まで取揚げ甚だ面白き事之上

（それ）の未尋さかさまの不思議（おもしろ）

まで図抜きより若一向なる事のみ

お探の残り念すべし

東海道割増附左六宿五割増残宿ハ二割増

五割増	本馬	軽尻	人足
平塚	弐十一文	三十弐文	九七文
大磯	三百七十九文	百八十六文	百三十九文
小田原	六百十弐文	弐百三十文	三百七十文
箱根	七百九八文	弐百七十文	三百六十文
三島	百六文	六十六文	弐十壱文
吉原	三百三十七文	百弐十文	五十弐文
蒲原	六十六文	弐十弐文	三十六文
日坂	百四十弐文	七十一文	弐十九文
袋井	百八文	弐十六文	弐十三文
舞坂	弐十三文	弐十七文	十八文
新居	百十八文	七十弐文	弐十九文

中仙道	當時	寺割又ハ婚
守山	又割増	英江吉 又割増婚
日光道中	當時	寺割又ハ婚
例幣使道	寺成道共	
石橋	四割増婚	雀の宮 四割増婚
甲州道中	當時	寺割又ハ婚
奥州道中	當時	寺割又ハ婚
幸連川	四割増婚	

江戸日本橋より諸國出口方角道法

一 東海道口　南ハ御殿川ハ安倍川より　日本橋より弐里

一 中仙道口　板橋より本郷迄ハ　日本橋より板橋迄弐里十三丁

	本馬	軽尻	人足
二川	百十四文	七十一文	五十四文
赤坂	百六十文	百六文	七十七文
荻川	百六十一文	七十七文	五十九文
石薬師	五十一文	三十四文	廿七文
庄野	百二十一文	八十七文	六十六文
坂の下	二百四十五文 下二百五十八文	二百廿六文 下百七十一文	百七十文 下百廿七文
草津	二百五十一文	百六十四文	百廿六文

右十八宿ハ外ﾆ不川より守口宿まで二割
佐屋路ハ濃路ハ此熱田ニ割増
あり此外中仙道日光道中甲州路
奥州道中ハ東海道時ニ割又ハ増あり
其中ニ倍数二三割又ハ増或ハ八割増
あり又ハ彼是両道中賃銭八割増ﾆ増ス
かなやより中駄賃まで是ハ一割増なり

一 川越道口 板橋より西へ入かみ之煉馬宿へ出る日本橋より煉馬まで四里

一 岩附道口 乾ニ当り本郷追分より川口ニ出る日本橋より川口渡しまで四里半

一 甲州道口 西ニ当り四谷追分より高井戸宿へ出る日本橋より高井戸まで四里半

一 相州大山道口 申の方ニ当り大山百人町かなはし村へ出る日本橋より七里半

一 奥州道兼日光道口 北ニ当り浅草橋より千住へ出る日本橋より千住まで二里八丁

一 水戸道口 丑の方ニ当り浅草より新宿へ出る日本橋より新宿まで三里卜

一 下総道口 東ニ当り両国橋より中川へ出る日本橋より中川渡場まで二里
成田山 鹿嶋 香取 息栖 潮来 銚子の道
皆此口より出るなり

東海道五十三次駄賃附

本駄賃		本馬	軽尻	人足
日本橋	二り	九十四文	六十一文	四十七文
品川	二り半	百十四文	七十一文	五十六文
川崎	二り半	百十四文	七十二文	五十六文
かな川	一り九丁	四十九文	三十二文	二十五文
程ヶ谷	二り九丁	百八文	六十九文	五十三文
戸塚	一り三十丁	八十六文	五十八文	四十四文
藤沢	三り半	百六十文	百五文	七十八文
平つか	廿六丁	三十四文	二十二文	十八文
大いそ	四り	百八十三文	百廿八文	九十文
小田原	四り八丁	四百卅八文 下五百九文	三百六十三文 三百卅八文	二百八十八文 三百五十二文
箱根	三り廿八丁	四百七十七文 下三百九十三文	三百十三文 二百五十六文	二百卅八文 二百文
三嶋	三り半	六十八文	四十四文	三十四文
沼津	一り半	六十八文	四十四文	三十四文

木曽路六十九次駄賃附

本駄賃		本馬	軽尻	人足
京	三り	百八十九文	百十一文	八十二文
大津	三り半六丁	百六十六文	百九文	八十一文
草津	一り半	六十一文	四十文	三十一文
守山	三り半	百四十五文	九十二文	七十一文
武佐	二り半	百六文	六十七文	五十文
愛知川	二り八丁	八十文	五十三文	四十一文
高宮	二り半	六十三文	四十二文	三十二文
鳥井本	一り六丁	四十七文	三十文	二十四文
ばんば	三十丁	四十二文	二十九文	二十一文
醒ヶ井	一り半	六十一文	四十文	三十一文
柏原	一り	四十三文	二十九文	二十一文
今須	一り	四十二文	二十九文	二十文
関ヶ原	一り半	六十一文	四十一文	三十一文
垂井	一り十二丁	五十二文	三十四文	二十六文
河ヶ坂	二り八丁	八十九文	五十八文	四十四文

原　三リ六丁　百三十四文　八十四文　六十八文
吉原　三リ廿丁　百五十壱文　百　文
蒲原　一リ　四十四文　三十文　二十二文
由井　三リ十二丁　百六十二文　百七文　七十九文
興津　一リ三丁　四十七文　二十二文　二十二文
江尻　三リ廿二丁　百九一文　七十七文　八十八文
府中　一リ半　八十二文　八十二文　四十二文
まりこ二リ　百四十壱文　九十一文　七十一文
岡部　二リ廿四丁　七十九文　八十一文　三十九文
藁枝　三リ八丁　百九七文　八十一文　六十一文
一ノ田　一リ　百九四文　七十七文　八十八文
金谷　二リ廿丁　百四十八文　九十四文　七十一文
日坂　一リ　九十四文　六十一文　四十七文
此ノ丁　下百四十文　九十四文　七十一文
かけ川　三リ廿丁　百十二文　七十一文　八十壱文
袋井　一リ半　六十九文　四十八文　三十二文
見附　二リ八丁　二百九十壱文　百八十文　百十九文
濱松　三リ廿丁　百九八文　七十九文　六十一文

三ケ日　一リ六丁　四十七文　三十一文　二十四文
合戸　一リ半　六十七文　四十四文　三十四文
加納　四リ八丁　百七十文　百十六文　八十三文
猪沼　二リ　九十四文　六十一文　四十七文
太田　二リ　九十四文　六十一文　四十七文
伏見　一リ五丁　四十二文　三十九文　二十一文
六ケ　三リ　百四十壱文　八十九文　六十七文
細久保　一リ廿丁　七十一文　四十六文　三十五文
大久保　三リ半　百八十壱文　九十一文
大井　三リ半　百十二文　六十八文　四十二文
中津　一リ五丁　八十壱文　三十六文　二十八文
篠合　一リ五丁　八十壱文　三十八文
馬込　二リ　百八文　六十七文　四十二文
妻籠　一リ半　八十三文　四十四文　四十二文
こだの　三リ半　百九八文　八十一文　六十二文
野尻　一リ廿丁　百三文　六十四文　四十九文
須原　三リ九丁　百五十壱文　百二文　七十六文
上ノ松　三リ半　百四十文　八十九文　六十七文

舞坂　海上　一リ

荷物一駄ニ付人一人

あくゐ　一リ半　七十七文　四十九文　四十文
白須賀　二リ廿六丁　六十七文　四十文　三十二文
二タ川　一リ半　七十二文　四十七文　三十文
よし田　二リ半　百十六文　七十三文　五十六文
汐見　油十六丁　二十二文　十六文　十二文
赤坂　三リ九丁　百七文　六十八文　四十一文
菊川　一リ半　七十八文　四十二文　三十九文
岡崎　三リ廿丁　百七十壱文　百十六文　八十六文
池鯉鮒　二リ廿丁　百七文　八十二文　六十一文
鳴海　一リ半　六十九文　四十壱文　三十壱文

宮　海上　七リ

荷物一駄ニ付人足一人

百九文

来名　三リ八丁　百五十壱文　九十壱文　七十二文
四日市　二リ廿七丁　百九七文　八十一文　六十一文
石薬師　廿七丁　三十四文　二十二文　十八文
庄野　二リ　八十六文　四十八文　四十四文

かめ山 一り半 六十九文 四十五文 三十五文
関 一り半 百十七文 七十三文 四十六文
坂下 二り半 三百廿文 百四十六文 百十一文
下百六文 百十一文 八十二文
土山 二り半十丁 百九七文 八十一文 六十一文
水口 三り十二丁 百四十文 九十一文 七十文
石部 二り半七丁 百四十文 八十八文 六十九文
草津 三り半六丁 百六十文 百九文 八十一文
大津 三り 百六十文 百十一文 八十二文
京都 凡里數合百廿四里半十五丁

○佐屋廻りの記

宮 二里 本馬 軽尾 人足
八十六文 弐十七文 四十七文

上十弐日ハ万場へ付越なり

岩須賀 半り 二十二文 十弐文 十弐文
万場 一り半 六十九文 四十六文 三十弐文
冠 守一り半九丁 六十九文 四十六文 三十弐文

沓掛 一り五丁 四十四文 三十文 二十弐文
軽井沢 二り半八丁 百八十一文 百九一文 八十九文
坂本 二り半 百七文 六十七文 弐十二文
松井田 一り廿丁 九十二文 六十一文 四十七文
安中 三十丁 三十四文 二十二文 十八文
板鼻 一り廿丁 七十一文 四十六文 三十弐文
高寺 一り九丁 弐十弐文 三十六文 二十八文
倉賀野 一り半 六十一文 四十一文 三十一文
新町 二り 七十八文 弐十一文 四十一文
本庄 二り九丁 百十一文 七十一文 弐十三文
深谷 二り廿丁 百十二文 七十一文 弐十弐文
熊谷 四り八丁 百六十弐文 百十一文 八十二文
鴻の巣 一り廿丁 七十一文 四十六文 三十弐文
桶川 三十丁 三十七文 二十弐文 十九文
上尾 二り八丁 七十八文 弐十二文 四十一文
大宮 一り十二丁 四十九文 三十四文 二十弐文
浦和 一り半 五十三文 三十六文 二十八文
わらび 二り八丁 八十九文 弐十八文 四十四文

佐屋 川舟三り
来名

伊勢参宮道

四日市 二り廿五丁
神戸 一り半
白子 一り半
上野 二り半
津 二り
雲津山 二り
松坂 四り
小俣 一り半
山田
外宮
内宮 津へ七り
津 一り半
久保田 四り
関 東海名

秋葉山 鳳來寺参詣道
掛川 口三り
森 町 一り半
市のせ 一り半
子あら河 一り
戒 支 二り十五丁
秋 葉 一り半
うんな河 下り
石うち 二り
くま 一り廿丁
大平 一り
酢山 一り
大野 一り
鳳来寺 九丁
かせや 三り

本坂越之道

見附 三り
かやんだ 四り
気賀 三り
三日市 二り半
吹瀬山 四り
浜 油 東海名

宮ヨリ越前海道

宮 一り半
名古や 一り半
清須 口一り半
稲 葉 一り半
さき原 一り
おう 二り半

尾州名古屋ヨリ大井ヘ出ル道法

名子屋 二り
枇川 一り半
坂下 一り半
内津 二り八丁
池田 二り
高山 二り
土岐 二り
釜戸 三り
大井 木曽

大津ヨリ大坂道

大津 四り八丁
伏見 口五十丁
淀 口三十二丁

坂ゟ 二り 九十四文 六十二文 四十七文
日本橋 凡里數合百三十五里十一丁

伊勢ヨリ大和廻リ
奈良吉野高野道

山田 一リ
小ぞめ 二リ
くり田 二リ
松坂 一リ
六ツ久や 半リ
月本 二リ
もさひ 四リ
なうの 二リ
ての口 三リ
山田 二リ
上野 二リ
鳴河原 一リ半
大河原 一リ半
かさ紀 二リ
かも 二リ
奈良 一リ

老ノ城 二リ半
大木 二リ半
油 東海ヘ
伊勢ヨリ田丸越
山田 一リ半
田丸 二リ
あふが 二リ半
ける 一リ半
大石 一リ半
みうき 二リ
たけ 一リ
大きつ 半リ
花原 半リ
杉原 一リ
うずし 半リ
もうの 一リ半
よし又 一リ

ものまさ 三リ
大垣 二リ半
垂井 一リ半
関ヶ原 一リ半
ふもと川 一リ半
まつせう 四リ
おなく 二リ半
木の本 二リ三丁
やまかせ 一リ
ほやい 二リ
中河内 三リ
板とり 二リ
今庄 一リ
鬼のを 二リ
脇本 二リ
府中 一リ
鯖江 一リ
水おち 一リ

牧方 五リ
大坂
伏見ヨリ大坂ヘ下舩
伏見 十三リ
大坂
大坂ヨリ京ヘ上リ舟同ジ
大坂ヨリ紀州道
大坂 三リ
堺 一リ
石津 三リ
岸和田 半リ
貝塚 二リ
志立 三リ
山中 一リ半
山口 二リ
和泉山口

帯とき 一リ
市の本 一リ
丹波市 一リ
柿本 一リ
三輪神社 一リ
慈恩寺 一リ
そせ観音 半リ
さくらゐ 半リ
ての べ 一リ
あもう 十丁
岡寺 二リ
小坂 五十丁
多武峯 二リ
ちまき 一リ
上市 一リ
よしの 一リ十八丁
ての せんぼん 五リ
ところ辻 十八丁

山ぐち 一リ半
田口 三リ
ぐいの 一リ半
もせ 一リ半
こもせ 二リ
丹波市 二リ
帯とき 一リ
奈良 一リ
くつめり峠 五リ
大坂
江嶋鎌倉道
日本橋 二リ
瓜川 二リ半
川さき 二リ半
かな川 一リ九丁
程ヶ谷 二リ九丁
戸塚 一リ半

ほうろう 二リ
福井 越前口
此所ヨリ
三国へ 五リ
大聖寺へ 九リ
小松へ 十四リ
金沢へ 九リ
江戸ヨリ加賀信州
善光寺道中
江戸ヨリ追分ヘ六十里同
追分 三リ
小諸 二リ半
田中 二リ半
上田口 三リ
さら木 三リ
軽井ヨリ三通リノ内
八代 二リ 八代 二リ半
丹波嶋ヨリ 松代 二リ

大坂ヨリ長崎道
大坂 三リ
尼ヶ崎口 二リ
西の宮 五リ
兵庫 五リ
明石口 五リ
きこの 五リ
姫路 路口 正徳ヘ
姫路ヨリ次々乃法
三日月へ 八リ
因州鳥取へ 八リ
作州濱田 七リ
事山ヨリ
松ヶ江ヨリ
正所 十八丁
ゐくし嶋 三リ 字
う 林 二リ
大八丁

ところ川	五十丁	
つかの内	十八丁	
天の川	九リ	此間宿ゝ多シ
高野山	五十丁	
ゝゝや	二リ	
ゝゝ	一リ	
かもろ	一リ	
ゝゝ本	二リ	
きれ〳〵峠	二リ	
三日市	二リ半	
いそむろ	二リ	
ふく町	一リ半	
ものすず	一リ	
堺	三リ	
大坂		

大山参詣道

蓑沢	三リ半	東海ゟ二リ
かまくら	二リ	
江の島		
蓑沢	三リ半	
一の宮	十八丁	
田村	二リ	
いせ原	一リ	
子安		
大山		

江戸ゟ甲州富士山身延道

日本橋	二リ	
四ッ谷	二リ	
下高井戸	二リ	
布田	一リ	
府中	二リ八丁	
日野	一リ	
八王子	一リ	
駒木野	一リ	
小仏	一リ	
小原	一リ	
よの	一リ	
関の	一リ	
上野原	一リ	
つる川	一リ	
のさ尾	一リ	
犬目	一リ	
上鳥沢	一リ	
さるはし	一リ	
駒ぞし	一リ	
大月	一リ	
此所ゟ富士山見ゆ		
大月	一リ	
矢村	一リ半	
三ツ石	一リ	
花上	一リ	
蓑井	一リ	
岡山口	一リ	
板倉	一リ	
川邊	一リ	
矢のみ	一リ	
七日市	一リ	
高屋	一リ	
神苗	四リ	
今津	一リ	
小野道	一リ	
見ゟ	一リ半	
ぬさ本御	一リ半	
なまり市	一リ	
さい条	五リ半	
いりこ	一リ	
廣嶋口	一リ	

日本橋

善光寺	十リ	
荒町	一リ半	
宝井		長沼一リ
柏原	一リ	宝井一リ
野尻	一リ	
関川	一リ半	
二俣	一リ半	
関の山	一リ六丁	
松崎	一リ	
荒井	一リ半	
高田口	一リ	
中屋敷	一リ	
長濱	一リ	
有間川	一リ	
〳〵	一リ	
のふ	一リ十二丁	
かち屋敷	一リ六丁	
糸魚川	一リ十六丁	
千住	一リ八丁	
草加	一リ	
越ヶ谷	二リ	
〳〵	一リ	
杉戸	一リ	
幸手	一リ	
栗橋	二リ	中田ゟ
中田	一リ	
古河	五丁	
のぎ	一リ	
〳〵田	一リ	
小山	一リ十丁	
新田	九丁	
小金井	一リ半	
石〳〵	一リ半	
雀の宮	一リ	
宇都宮	二リ	
白沢	一リ半	
あふみ	一リ	
うさミ	一リ	
市ゟ	一リ	
さく	一リ	
泊リ	一リ	左右
横山	一リ	右
中ぜん寺	一リ	舟見左
浦山	一リ	
三日市	二リ	
うをつ	一リ	
滑川	一リ	
東いるせ	一リ	
下村	一リ	
小すき	一リ	
高岡	四リ	
今不動	一リ	
〳〵ふう	一リ	
竹の橋	二リ	
〳〵	一リ半	
此所ゟ宮島へ四リ		
海濱へ	一リ	
草津	一リ	
日日市	一リ	
くち	一リ	
せきと	四リ	
此間岩国道アリ		
くだかれ	一リ半	
高もと	二リ	
今市	一リ	
窪田	九丁	
花岡	一リ	
徳山口	半リ	
富田新田	一リ	
あい河	一リ半	
ものうミ	一リ	
宮市	四リ半	

武江 二り四丁
きれ川 二丁半
作山 一り廿五丁
太田原 三り三丁
なべなし 六丁
こゑ坂 二十三丁
芦野 三り四丁
白坂 一り卅三丁
白川 廿七丁口
秋だ 一り
小田川 十三丁
大田川 二十四丁
ふまセ 二十三丁
大和久 八丁
志田 十一丁
矢吹 九四丁
くろ一 十二丁
笠石 一り半

おのま 一り半
上吉田
富士山
下花崎 一り五丁
下初ね 一り
白野 一り
黒野田 一り
つゝセ 一り
刈沼 二り
石和 一り十九丁
甲府口 こゝより
かちう沢 廻沢 一り半
羽木井 五り半
身延山 東海ゟ廻る
南部 三り
万沢 四り
松の 二り十七丁
岩淵 東海ゟ

金沢 加賀口
金沢一り 富山ゟ
の市 八丁 金沢ゟ
松とう 富山 三り十丁
かりの一り 三戸田七丁
水嶋 一り 中田廿丁
栗生 一り 戸を 廿七丁
寺井 一り 今木動 廿丁
小松 一り 石ふう 一丁
今井 一り 竹の迄 廿丁
月津 一り 松なり 一丁半
ふくさ 一り 金沢口
佐見 一り 滑川 四り
大聖寺口 富山へ

豊前小倉ゟ
薩摩鹿児嶋道

木のくり 山中へ 二り半
此所ゟ
長門萩へ十り
山中 二り半
舟木 一り八丁
ひのさき市 二り廿丁
よし田 一り
小月 二り
長府口二り
下の関 三り
小倉口黒サキへ 一り三十丁
此所ゟ
中津へ十三り
小倉ゟ田代迄
両道あり
ひや水通り分
小倉 二り廿一丁
黒崎 二り廿四丁

きの川 一り廿丁
笹川 六丁
日出の山 十二丁
小原田 十五丁
郡山 九八丁
福原 九二丁
ひらそ 廿三丁
高くら 一り七丁
本宮 一り十二丁
杉田 一り六丁
二本松口 一り二丁
油井 六丁
二本柳 一り二丁
八丁の目 一り二丁
若宮 十一丁
新こ町 一り廿五丁
福嶋口 二り八丁
せのセ 一り十二丁
桑折 一り七丁

江戸ゟ上 総 房州 道法

行徳 三り 大和田 廿七丁
舟橋 二り 臼井 二り
馬加 十丁 佐倉口 二り
椎覚川 一り半 横芝 一り半
寒川 三丁 東金 三り
そり北 廿丁 野田 二り
大まち 廿丁 千葉 二り
八日さ 一り 穴ほ藏 二り
五井 一り 姉崎 二り
姉崎 二り 高師 一り半
ならバ 二り 一宮 一り半
木更津 四り 大ぞめ町 一り
佐貫 一り 流山 二り
天神山 一り半 長南 二り
百首 二り 大多喜 一り
金谷 一り 今富 二り

小倉 二り廿一丁
黒崎 二り廿四丁
あやせ 四り半六丁
飯塚 三り半
内野 二り廿九丁
山上 一り九丁
原田 二り
田代

此所ゟ
小倉ゟ八町峠
通

こやのせ 四り半六丁
飯塚 三り半
内野 二り廿九丁
山上 一り九丁
原田 二り
田代

此所ゟ 二丁八丁峠の通り下出合
小倉 二り廿丁
石ひの 十四丁
さいとう和一り
かくとの家 二り
ひのさき 二り
大くま原 一り三丁
せんじも 二り十四丁
此間八丁峠アり

苅田 一リ七丁
貝田 十八丁
こすがう 一リ十六丁
さい川 一リ十六丁
白石ロ 一リ六八丁
葛田宮 一リ十二丁
金がせ 三十丁
大河原 一リ十二丁
舟迫リ 一リ十二丁
槻木 一リ廿七丁
岩沼 一リ卅丁
倍田 卅一丁
中田 一リ
長町 一リ十三丁
仙台ロ 二リヨ
七北田 二リ十九丁
志ん町 一リ廿二丁
吉岡 三リ十丁

保田 一リ 安房
茅や 一リ
勝山 二リロ
久留里 一リ
大房 二リ
かつ浦 二リ
府中 二リ
上野 一リ半
北条 一リ
小湊 二リ 安房
舘山 一リ半
内浦 一リ
那胡 一リ
天津 五リ
洲崎
て濱

江戸ヨリ鹿嶋香取息栖てふ乃

日本橋 三リ
行徳 一リ
八幡 二リ八丁
釜ヶ谷 二リ八丁
白井 二リ八丁
大森 廿六丁
木おろし 川通リ舟
潮来へ 七リ

佐茂 四リ半
水の俣 四リ十二丁
ゆのミ 二リ四丁
野田 二リ半
阿久根 三リ半五丁
西方 三リ半十丁
向田 三リ半十丁
みなと 三リ半七丁
苗代川 三リ四丁
横井 十七丁
鹿児島 薩广
琉球国 百廿里

瀬のうへ 米沢道
白川より 會津道

せの上 二リ九丁
白川 二リ半
佐々森 一リ
飯用 一リ
庭坂 二丁
小や 二リ
李平 二丁
牧内 二リ半

秋月ロ 二リ
野町 一リ六丁
松崎 二リ廿丁
此所より 久留米へ 三リ
此所より 柳川へ 五リ
此所より 熊本へ 十六リ
田代 嶋へ 一リ
此所三リ余水道リ 山家
守ろき 一リ廿二丁
中なる 二リ九丁
ひんさき 一リ半
そろの町 一リ半
さが 二リ
牛津 一リ
小田 二リ十二丁

二本木 一リ廿六丁
古川 一リ十二丁
ひらや 一リ廿丁
高清水 二リ十九丁
月立 廿丁
宮野 一リ卅丁ヨ
沢辺 十八丁ヨ
金成 二リ六丁
有壁 二リ三丁
一の関 廿丁ヨ
山の目 三リヨ
前沢 二リ廿二丁
水沢 一リ卅四丁
金ヶ崎 二リ六丁ヨ
鬼柳 十八丁
黒沢尻 三里
花巻 三リ十丁
石とや 二リ
郡山 四リ七丁

鹿島へ 九リ
香取へ 十リ
息栖へ 十二リ
銚子へ 十八リ
木おろし 二リ 陸路
安食 四リ
神崎 二リ
津宮 三リ
香取 神社
小見川 二リ
佐々川 二リ
野尻 二リ
銚子

江戸ヨリ日光道中

日本橋 二リ
千住 二リ七丁
草加 一リ廿丁

坂谷 三リ
永沼 二リ
大沢 二リ十二丁
勢至堂 二リ
米沢 二リロ
見代 半リ
粕目 一リ
福良 一リ半
筑茂 二リ三丁
赤津 一リ半
赤湯 一リ
原 一リ半
川樋 四リ丁
赤井 二リ
老清水 二リ
會津 若松ロ 二リ
中山 一リ
高久 二リ半
川口 一リ十丁
板下 一リ半
上の山 一リロ半
片ケさ 三リ半
戦バ 二リ
野沢 一リ半
山辺 一リ
野尻 一リ半
長崎 一リ半
白坂 一リ半
さゝくら 一リ半
八ッ田 一リ半
白岩 二リ
焼山 一リ半
海塩 一リ半
天満 一リ
佐沢 一リ半
津川 二リ

成瀬 二リ丁
塩田 二リ九四丁
嬉野 二リ六丁
その木 三リ
松原 一リ
大村ロ 三リ
いさはや 四リ
矢上 一リ
日見 二リ
長崎

大坂ヨリ長崎迄船路

大坂 十リ
兵庫 五リ
明石ロ 十三リ
室 五リ
大ッ崎 五リ
牛窓 七リ

南部盛岡 四十七里
志ぶ民 四里二十丁
沼宮内 分八丁
一の戸 一里九丁
福岡 七丁
金田市 三里二丁
三の戸 三里十五丁
麻水 一里十七丁
五の戸 一里四丁
傳方寺 九丁
荻禽 三里廿丁
七の戸 五里廿五丁
野辺地 四里十三丁
小湊 四里十丁
野内 二里十七丁
青盛 一里十三丁
大濱 三里九丁
蓬田 二里三丁

越ヶ谷 二里廿丁
かすべ 一里半
杉戸 一里半
幸手 二里廿二丁
栗橋 二里
中田 一里半
古河 九丁
野木 二里
まく田 一里五丁
小山 七里半
新田 十九丁
小金井 一里半
石ばし 一里半
雀の宮 二里三丁
宇都宮 一里
野沢 一里半
徳二良 二里半
大沢 二里

本名寺 一里
いさご 半里
とつかり
なびき 一里
大網 一里半
松根 一里
九岡 一里
鶴岡 一里
乗折 一里半
秋田道
乗折 一里半
小坂 二里
上ノ沢 一里
下ノ沢 一里
渡せ 二里
瀬木 一里
まき 二里
岬田 一里

湯口 荒屋打
綱木 一里半
赤谷 一里
山内 二里
一之田口
米倉 一里
いも峯 一里
加持 一里
黒川 八里
平林 二里
村上 二里半
庄内
本庄道
鶴岡 一里
荻島 一里
新川 五里

ひぐ 三里
志もてい 七里
白石 三里
鞆 五里
あけ 十里
三ならい 五里
かまのつる 八里
津和 五里
うむろ 七里
上の関 五里
室すく 五里
ひさ 七里
むろう 五里
新沼 十三里
下の関 三里
〇下の関より大平まで二十里
此間大名方ハ大平まで
船を用ゆる由咸

蟹田
平舘 五里九丁
今別 一里八丁
三厩 海上七里
松前 口

〇野邊地ゟ佐井通
野辺地 二里八丁
有戸 四里八丁
横濱 九里七丁
中野沢 三里九丁
田名部 三里九丁
大畑 二里九丁
下風呂 二里四丁
異国澗 一里五丁
大澗 一里十丁
奥戸 二里
佐井 海上八里
松前箱館

今市 二里
鉢石 十丁
日光

江戸ゟ水戸海道
日本橋 二里
千住 一里
新宿 一里
松戸 二里
小金 三里
あびこ 一里
取手 二里
荻代 二里
若柴 二里
牛久 二里
荒川 二里
中村 一里
土浦 一里

湯原 三里
酒田 六里
橋下 二里
次浦 一里
上の山 二里
女鹿 一里
松原 二里
小砂川 一里
山形 半里
塩越 一里
天童 一里
家沼
六田 一里半
金の浦 二里
楯岡 二里
村田 一里
飯田 一里
平沢 三里
林田 一里半
本庄
尾搦沢 二里
秋田ゟ
村沢 二里
舟方 三里
久保田 秋田四里
清水 二里
湊 四里
相見 一里
大窪 十丁
古口 六里
蛇川 四里
新庄 四里
大川 二里
金山 三里
鹿渡 二里半

小倉 二里廿丁
此所ゟ二里福岡道
小倉 二里廿丁
黒崎 二里廿四丁
まやせ 四里
赤間 二里
ひのせ町 二里
青柳 三里半
箱崎 九丁
博多 一里
福岡
黒崎 二里廿丁
ゑのせ 四里
飯塚 三里
内野 二里半
山上 一里九丁
原田 二里
田代

本馬 此六貫目
乗掛下 十人目より
軽尾 十人目まで
一ノ附 三人目より
八人目まで

右の駄賃ハ右ニ
記す駄賃を二ツ
合く三ツの割則
壱り駄賃より
たとへば駄ちん
百文の附二ツ合
せバ二百文よりなる
これを三ツよ割バ
六十七文と云ふ
ことなり

金荷 八人目
壱駄賃の
まゝ
なり

中ぬき 一リ
稲石 二リ
府中 一リ
竹原 一リ
片倉 二リ
おなく 二リ
長岡 二リ
水戸 此所より大田通奥州へ
新田 二リ
額田 一リ半
大田 二リ
町家 一リ
わふち 一リ
川原の 一リ十丁
折ち 一リ
大中 一リ
小中 もと奥州

のぞき 三リ 森岡 三リ
陣内 一リ 檜山 三リ
横岡 一リ 鶴ノ開 一リ半
湯沢 一リ十丁 飛根 一リ半
横ふ 二リ 荷上場 一リ
金沢 一リ半 小繁 一リ
六鄕 一リ 前山 一リ
大曲 一リ 今泉 六丁
花立上寺 峯沢 三リ
神宮寺 一リ半 一ノ化と云
刈和野 三リ 大舘 一リ
堺 四リ 秋田領内 五リ
户嶋 三リ 碇関 五リ
久保田 駄田 此所より
松前海上 屋まで
七十八里 二十八里

是ゟ長崎へ 前ノ向
肥前名子屋ゟ 對馬朝鮮里數
名子屋 勝本 對馬 朝鮮国
三百七十里餘 四十リ 大坂ゟ釜山浦迄
長崎ゟ外國里數 三百七十里餘
南京 三百四十里
廣東 八百七十里
東京 千六百里
カ東捕寨 千八百里
暹羅 二千三百里
天竺 四千百四十里
阿蘭陀 二万二千九百里
イキリス 二万七百里

西國三十三所 觀音靈場地名

一番	紀伊國	那智山
二番	同	紀三井寺
三番	同	粉河寺
四番	和泉國	槙尾寺
五番	河内国	葛井寺
六番	大和国	壺坂寺
七番	同	岡寺
八番	同	長谷寺

秩父三十四所 觀音靈場地名

一番	武州	四万部山
二番	同	大棚 妙音寺
三番	同	岩本 常泉寺
四番	荒木	金昌寺
五番	ゴカノ堂	語歌寺
六番	歌ノ堂	ト雲寺
七番	牛伏	法長寺
八番	青苔山	西善寺

坂東三十三所 觀音靈場地名

一番	相州鎌倉	杉木寺
二番	同三浦	岩殿寺
三番	同鎌倉	田代堂
四番	同	長谷寺
五番	同足柄郡	飯泉
六番	同飯山	長谷寺
七番	同金目	光明寺
八番	同星谷	星谷寺

九番 奈良 南圓堂
十番 宇治 三室戸寺
十一番 山城 上醍醐寺
十二番 江州 岩間寺
十三番 同 石山寺
十四番 同 三井寺
十五番 山城 今熊野の
十六番 同 清水寺
十七番 同 六波羅蜜寺
十八番 同 六角堂

九番 明星山 明智寺
十番 万松山 大慈寺
十一番 坂氷 常樂寺
十二番 佛通山 野坂寺
十三番 分イタ 慈眼寺
十四番 長岳山 今宮坊
十五番 母巳巢山 藏福寺
十六番 無量山 西光寺
十七番 ハヤシ寺 定林寺
十八番 神門寺

九番 武蔵国 慈光寺
十番 同比企岩殿 正法寺
十一番 同吉見岩殿 安樂寺
十二番 同岩付 慈恩寺
十三番 江戸 淺艸寺
十四番 武州 弘明寺
十五番 上州白石 長谷寺
十六番 同 水澤寺
十七番 下野佐野 出流山
十八番 同日光 中禪寺

九番 同 華堂
二十番 同 善峯寺
廿一番 丹波国 穴穂寺
廿二番 摂津国 総持寺
廿三番 同 勝尾寺
廿四番 同 中山寺
廿五番 播州 新清水寺
廿六番 同 法華山
廿七番 同 書寫山
廿八番 丹後国 成相寺

九番 飛滿山 龍石寺
二十番 同 岩の上
廿一番 同 矢の堂
廿二番 同 榮福寺
廿三番 エガサカ 音樂寺
廿四番 シラヤマ 法泉寺
廿五番 下影森 圓融寺
廿六番 久那 久昌寺
廿七番 上影森 大淵寺
廿八番 ハシタテ 橋立寺

十九番 下野 大谷寺
二十番 同益子 西明寺
廿一番 常州八講 日輪寺
廿二番 同天神林 佐竹寺
廿三番 内笹間 佐白山
廿四番 内雨引 樂法寺
廿五番 内筑波山 大御堂
廿六番 内南明山 清瀧寺
廿七番 下總銚子 飯沼山
廿八番 内滑河 龍正院

九番若狭国 松尾寺
拾番 江洲 竹生島
壱番同 長命寺
弐番同 観音寺
参番美濃国 谷汲寺
右谷汲寺ゟ巡礼信州善光寺へ参るへ加納へ出夫ゟ木曽路洗馬ゟ右へ行なり

歸厚客話

景山先生著 初編十冊 近刻

往来を與へ農家の田畑山林を肥し正直にして豪富と成古今の實事を集め夫ゟ部分して初学の志を扶る階梯に書なり

壱番 長泉院
弐番 寶雲寺
参番 法性寺
四番 水潜寺
五番 菊水寺
六番 観音院
七番 鶏冠井 観音寺
八番 小坂下 水くりす 水潜寺
九番 ハシヤ 法性寺
拾番 水くりす 菊水寺
弐番 観音寺
参番 谷汲寺
四番 長命寺
五番 寶雲寺
六番 竹生島
七番 江洲 松尾寺
八番 若狭国

壱番 弓書 遠ち 平葉寺
弐番 上総 高倉 高藏寺
参番 弓笠森 掬光院
四番 弓音羽 清水寺
五番 房州 那古 呉寺
右房州ゟの道すがらは日光鹿島香取其外名所旧跡最も多あるて西国ゟもおとらぬ風景之

女子教訓 引 同 繪入全二冊 近刻

女子教訓の書古昔ゟ書て何きもあるなれども時代ゟ時代ゟ移りて今の世に合ぬ所ありて俗間おもしろからぬ教訓もすくなからず依て此書八士農工商の孝道忠義寄特正直女子の志を肥し百工の好事まで名人上手の業を積おけて一大おとし教訓となるやう引直して女子の至極のこゝろみよきあらまし

今の世に合ぬ所ありて俗間おもしろからぬ教訓もすくなからず依て此書八士農工商の孝道忠義寄特正直女子の志を肥し百工の好事まで名人上手の業を積おけて一大おとし教訓となるやう引直して女子の至極のこゝろみよきあらまし

文化七年庚午八月既望

東都書肆

日本橋通壹町目 須原屋茂兵衛

淺草茅町二丁目 須原屋伊八

彫工 佐脇庄兵衛 同 伊三郎

38-755